



埼玉県マスコット
さいたまっち&コパトン

ノウ フク

令和3・4年度 調査研究事業

研究報告書
第429号
【最終報告】



特別支援学校生徒に対する 農業分野への就労支援





ターゲット
4.4

2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。



ターゲット
8.5

2030年までに、若者や障害者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する。

【 農福連携 】

農業と福祉が連携し、障害者の農業分野での活躍を通じて、農業経営の発展とともに、障害者の自信や生きがいを創出し、社会参画を実現する取組であり、近年、農業経営体による障害者の雇用、障害者就労施設等による農業参入や作業受託等、様々な形で動きが見られるようになってきている。

【 令和元年6月 農福連携等推進会議 農福連携等推進ビジョン 】

【 作業学習 】

作業活動を学習活動の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するもの。

【 平成30年3月 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編 】

【 産業現場実習 】

「産業現場等における実習」の形態のことで、特別支援学校生徒が、現実的な条件下で、生徒の職業適性等を明らかにし、職業生活や社会生活への適応性を養うことを意図するとともに、働くことに関心をもつことや、働くことのよさに気付くことなど、将来の職業生活を見据えて基盤となる力を伸長できるように実施していく活動である。

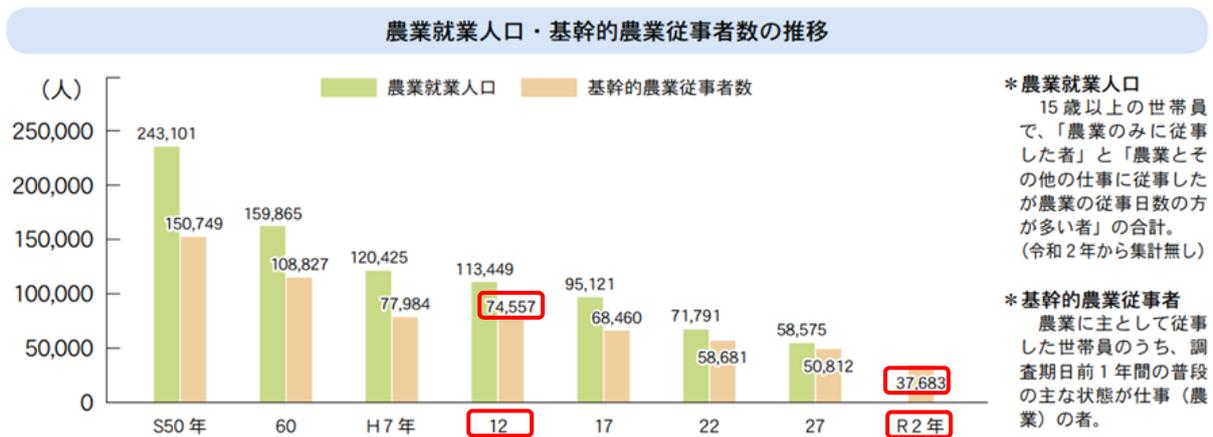
【 令和2年3月 埼玉県特別支援教育 教育課程編成要領(Ⅰ) 特別支援学校編 】

※卒業後の就労において実際の産業の現場で1～2週間程度を基本に実習を行い、実習先と本人・保護者の相互理解を図り、卒業後の進路につなげる仕組み。進路指導の一環として、職業に対する適性を見極めるために企業等で実施され、その上で、生徒・保護者の希望と企業等の採用意向が一致した場合、学校は企業等からハローワークを通じ、障害者雇用の求人を得て就職内定に至る。

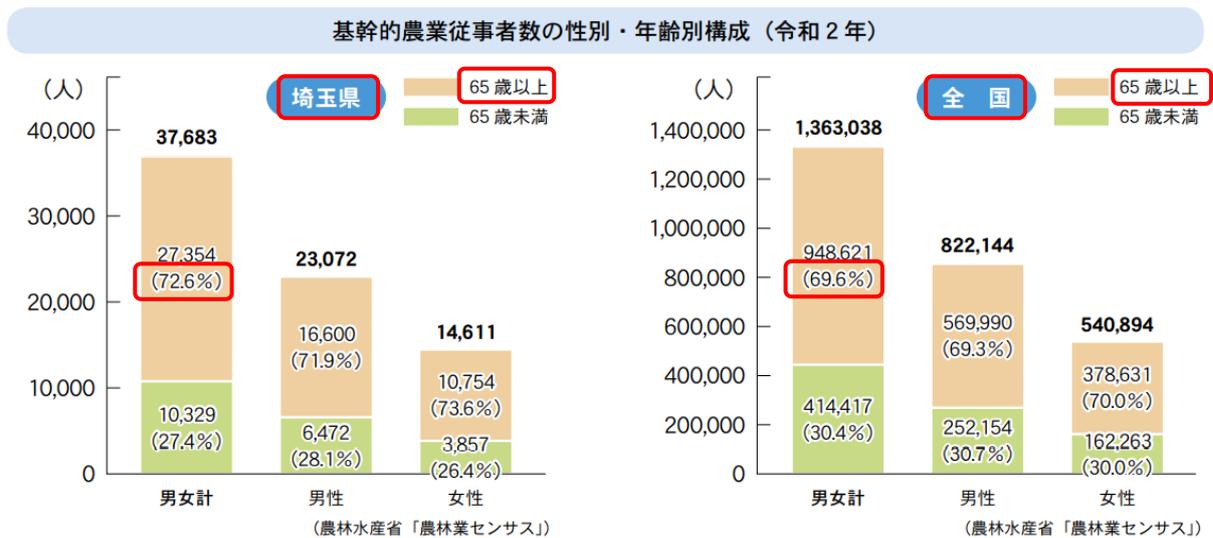
はじめに	3
I 概要	
1 研究目的	4
2 研究方法	5
II 農福連携に関するアンケート調査による実態把握	
1 概要	7
2 主な結果の分析	8
3 考察	12
III 協力委員会での協議	
1 第1回	13
2 第2回	16
3 第3回	18
IV 就労支援のための「作業学習プログラム」の完成	
1 作成方針	20
2 委員の提言を活かしたプログラムの完成	21
V 研究成果の発信と広報戦略	
1 文部科学省・農林水産省担当課による本県特別支援学校の視察随行	24
2 農福連携等応援コンソーシアム総会への資料提供	28
3 農福連携等応援コンソーシアム賛助会員の申請	28
4 ポータルサイト「ノウフクWEB」での研究内容掲載	28
5 ノウフク座談会での研究内容発信・意見交換	29
VI まとめ	
1 農福連携の今後に向けて	30
2 おわりに	31
VII 参考	
1 調査研究協力委員	32
2 事務局	32
3 資料	33
(別掲載) 令和3年度実施アンケート調査 質問内容と結果	35

はじめに

我が国では、農業就業人口*の減少が進行している。本県も例外ではなく、基幹的農業従事者数*は令和2年度までの20年間で約5割減少し【図1】、加えて従事者の72.6%が65歳以上と、全国に比しても高齢化が進展しており【図2】、農業分野での労働力確保は喫緊の課題となっている。



【図1】資料：「2022 埼玉の食料・農林業・農山村」



【図2】資料：「2022 埼玉の食料・農林業・農山村」

一方、障害者の働く意欲の高まりなどを背景に、就労系障害福祉サービスから一般就労への移行者数は全国で、平成20年度の3,000人から同29年度には5倍の15,000人と大幅に増加している。そのような中、国の農福連携等推進会議は令和元年6月に「農福連携等推進ビジョン」をまとめ、農福連携の取組を官民挙げて実践することで、農業の発展や障害者等の一層の社会参画を促進し、さらには地域共生社会の実現を期待している。

I 研究目的

特別支援学校での農業に関する「作業学習」の充実に資するプログラムを作成し、あわせて農業分野の企業・法人与特別支援学校の連携を促すことで、生徒の就労機会を増やす。

埼玉教育に携わる教職員や、農業分野で働く方をはじめとした県民に向けて研究成果を広く発信し、埼玉県における農福連携に貢献する。



【研究仮説】

特別支援学校における農業に関する作業学習の内容を充実させ、生徒の農業分野への就労意識を向上させるとともに農業分野で活躍できる人材を育てる。また、農業分野の企業・法人に学習内容に関する情報を発信し、産業現場実習等の機会を促進することで農業分野への就労者数が増加し、労働力確保が進展する。



【目的設定の背景】

本県の特別支援学校では従来から、作業学習に「農耕」や「農園芸」「園芸」「食品製造」等を設置しており、一定数の生徒が農業に関する学習に通年で取り組んでいる。しかし、学習で得た知識や技術を直接生かした就労は限られているとされており、その実態を明らかにする必要がある。

また、埼玉県の農業就業人口は先述のとおり減少が続いているものの、農業法人数は増加が続いている【図3】。農業が家族経営から法人経営へと移行していると考えられ、障害のある人の就労や特別支援学校生徒の学卒就労についても、労働力としての雇用が期待される。



【図3】資料：「2022 埼玉の食料・農林業・農山村」（農業支援課調べ）

2 研究方法

研究の期間を令和3・4年度の2か年とし、調査研究協力委員（障害者雇用のある農業分野の民間企業役員、総合教育センター特別支援教育担当、県立特別支援学校教職員）を委嘱し、次のとおり行った。

(1) 1年次

- ア. 県立特別支援学校教職員を対象にアンケート調査を実施し、意識・実態の把握を行う。【調査】
- イ. 県内農業関連企業・法人を対象にアンケート調査を実施し、意識・実態の把握を行う。【調査】
- ウ. 上記ア・イの結果や研究協力委員会での意見等を踏まえて、特別支援学校生徒の就労支援のための「作業学習プログラム」原案を作成する。【研究】

(2) 2年次

- ア. 1年次に作成した「作業学習プログラム」を委員所属校で試行し、問題点の整理や内容の向上を図る。【研究】
- イ. 農業関連企業・法人の人材を調査研究協力委員に委嘱し、「作業学習プログラム」の内容の向上に資する提言をいただく。【研究】
- ウ. とりまとめた「作業学習プログラム」を県内特別支援学校で活用するとともに、農業分野で働く方をはじめとした県民に向けて研究成果を広く発信する。【発信】

【令和3・4年度調査研究】
特別支援学校生徒に対する農業分野への就労支援

【令和3年度】	【令和4年度】
<p><u>調査研究協力委員会（3回）</u></p> <p>【調査】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 県立特別支援学校の意識調査・実態把握・ 県内農業関連企業・法人の意識調査・実態把握 <p>【研究】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 就労支援のための「作業学習プログラム」原案作成	<p><u>調査研究協力委員会（3回）</u></p> <p>【研究】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 委員所属校での作業学習プログラム試行・ 農業関連企業を交えた作業学習プログラムのブラッシュアップ <p>【発信】</p> <ul style="list-style-type: none">・ プログラムを完成させ活用・ 研究成果を広く県民に発信

埼玉県の農福連携に貢献！

【令和3年度】

第1回
委員会

- ◆農福連携に関する意見交換（各校の現状を共有）
- ◆特別支援学校教職員対象アンケート調査の検討

【アンケート調査の実施①】 特別支援学校教職員対象

- 1) 対象 県立特別支援学校のうち知的障害・高等部のある27校
- 2) 実施期間 令和3年8月3日～8月31日

第2回
委員会

- ◆特別支援学校教職員対象アンケート調査の結果分析
- ◆農業関連企業・法人対象アンケート調査の検討
- ◆「作業学習プログラム」の原案検討

【アンケート調査の実施②】 農業関連企業・法人対象

- 1) 対象 県内事業所のある農業関連企業・法人154経営体
- 2) 実施期間 令和3年11月8日～11月31日

農林部・農業支援課と
連携して選定

第3回
委員会

- ◆農業関連企業・法人対象アンケート調査の結果分析
- ◆就労支援のための「作業学習プログラム」の内容検討
（プログラムの先行実施による協力委員成果報告）

【令和4年度】

第1回
委員会

- ◆農福連携に関する意見交換（各校の現状を共有）
- ◆「作業学習プログラム」の試行による内容の再検討—1

【研究授業・学部研究】深谷はばたき特別支援学校

- 1) 対象 知的障害・高等部・作業学習（グリーンファーム班）
- 2) 実施日 研究授業：令和4年6月30日 学部研究：7月20日

第2回
委員会

- ◆「作業学習プログラム」の試行による内容の再検討—2
- ◆より効果的なプログラムの活用方法の検討
- ◆農業分野の企業・法人への周知内容と方法の検討

【現状視察・意見交換】文部科学省・農林水産省担当課

- 1) 対象 専：羽生ふじ高等学園 普：深谷はばたき特別支援学校
- 2) 実施日 令和4年9月15日

特別支援教育課・高校教育指導課も随行

第3回
委員会

- ◆「作業学習プログラム」の原案最終検討
- ◆プログラムの活用戦略検討、情報発信の検討

Ⅱ 農福連携に関するアンケート調査による実態把握

Ⅰ 概要

(1) 特別支援学校教職員対象

ア. 調査目的

就労支援のための「作業学習プログラム」作成に際し、特別支援学校教職員の農福連携への意識と進路指導や農業学習の実態を把握し、内容を検討する。また、農業関連企業・法人に対して教職員が聞きたいことや就労指導に向けての疑問点を把握して、農業関連企業・法人対象アンケートの質問項目作成に反映する。

イ. 調査期間 令和3年8月3日 ～ 8月31日

ウ. 調査対象 県立特別支援学校のうち知的障害・高等部の設置がある27校

エ. 回答方法 Googleフォームによる。

オ. 調査内容 質問項目は別掲載資料①を参照 PP.35-43

カ. 回答数 93名より回答（内訳：学校長18 進路指導22 農場18 一般35）

	対象者数 N	回答数 n	回収率(%)
学校長	23	18	78.3
進路指導担当	27	22	81.5
農場・学校ファーム担当	26	18	69.2
一般教職員	---	35	---
計	---	93	---

キ. 調査結果 別掲載資料①を参照 PP.44-62

(2) 農業関連企業・法人対象

ア. 調査目的

就労支援のための「作業学習プログラム」作成に際し、農業関連企業・法人の農福連携や障害者雇用への意識や実態を調査する。障害のある人や特別支援学校生徒を雇用する場合に求めることを把握し、今後の特別支援学校との連携や生徒の就労機会拡大に資する提言を汲み取り、プログラムの内容向上を図る。

イ. 調査期間 令和3年11月8日 ～ 11月31日

ウ. 調査対象 県内の農業関連企業・法人 154箇所

エ. 回答方法 郵送による返送、FAX、Googleフォームのいずれかによる。

オ. 調査内容 質問項目は別掲載資料②を参照 PP.63-69

カ. 回答数 84箇所から回答

	対象箇所 N	回答数 n	回収率(%)
農業関連企業・法人	154	84	54.5

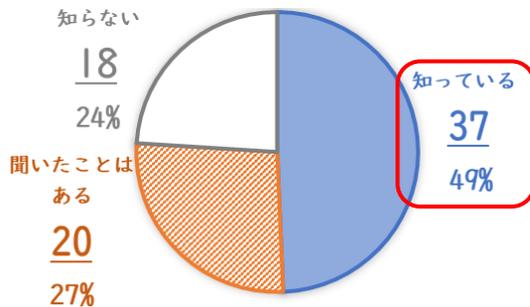
キ. 調査結果 別掲載資料②を参照 PP.70-79

2 主な結果の分析

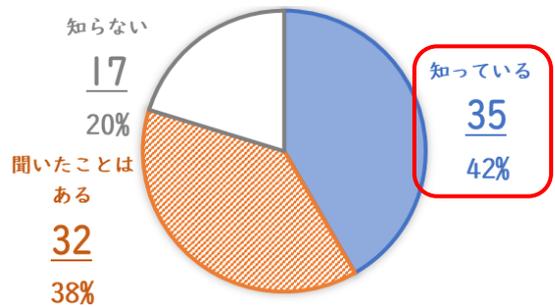
「農福連携」について知っていますか？（単一回答）

♥ 特別支援学校教職員

※学校長をのぞく



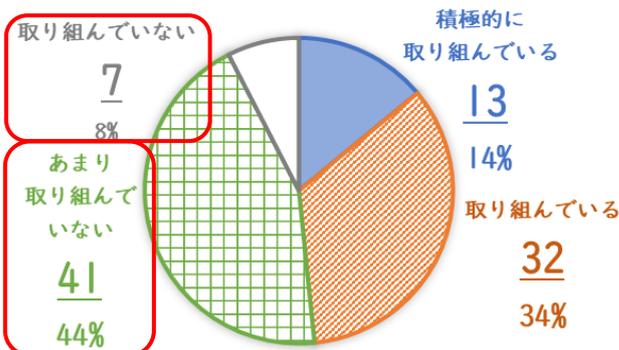
♣ 農業関連企業・法人



■ 「知っている」との回答は、特別支援学校教職員、企業・法人とも半数以下にとどまり、本県では取組が認知されていない現状が分かる。プログラム作成をとおして、認知度を高める工夫が必要である。

農業分野への就労（農福連携）について、取組状況はどうか？（単一回答）

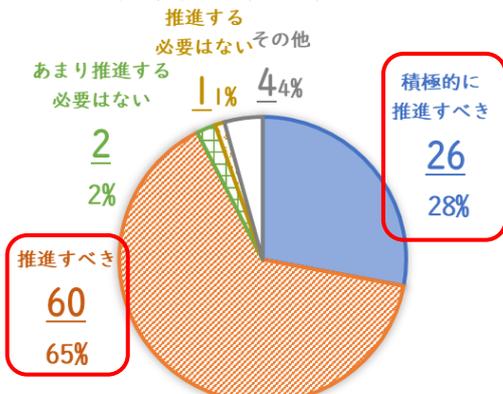
♥ 特別支援学校教職員



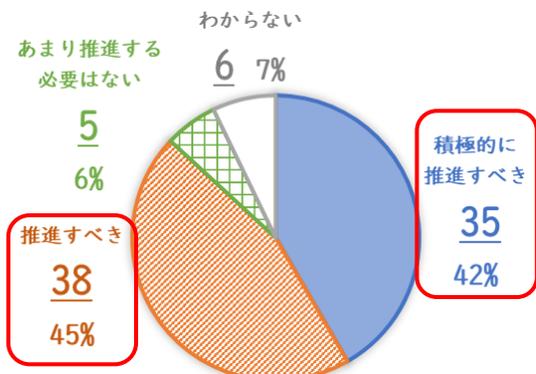
■ 学校で農業分野の学習に取り組んでいても、就労に向けて取り組んでいると答える教職員は半数以下にとどまる。学習内容を活かした就労ができるよう支援する必要がある。

農福連携の今後について、どう考えますか？（単一回答）

♥ 特別支援学校教職員



♣ 農業関連企業・法人

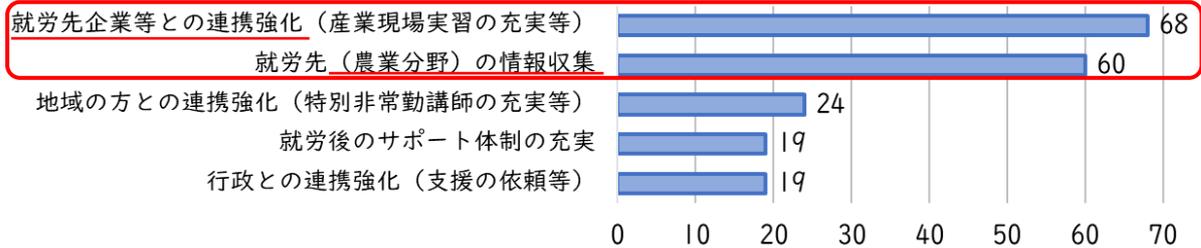


■ 「農福連携」に対する認知度は低いですが、特別支援学校では93%が、企業・法人でも87%が今後、取組を推進する必要性を感じている。プログラム作成では、教育・農業分野双方の取組に対する理解への工夫が求められる。

学校がどうすれば産業現場実習の受入先は増えると考えますか？（3つ以内で回答）

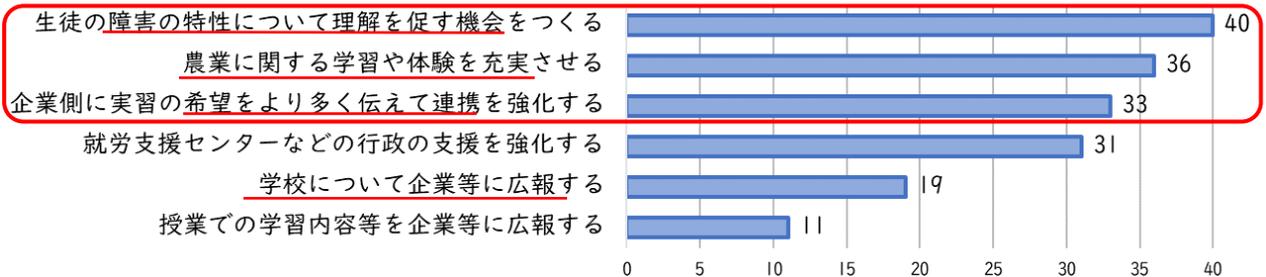
♥ 特別支援学校教職員

※上位を掲載



♣ 農業関連企業・法人

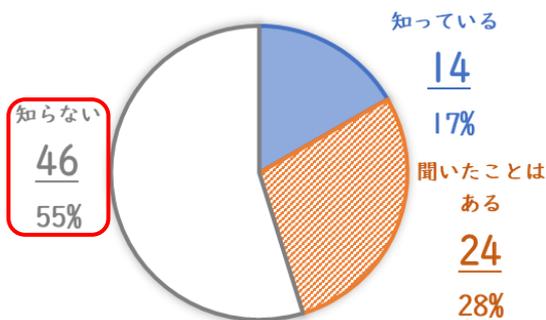
※上位を掲載



■お互いに情報不足であることが分かる。学校に企業等の情報を提供し、企業等には特別支援教育や知的障害の特性、作業学習での農業分野での取組を理解してもらう必要がある。両者の理解が現場実習の増加につながる。

「作業学習」について知っていますか？（単一回答）

♣ 農業関連企業・法人



■多くの学校が農業分野の作業学習に年間を通じて取り組んでいるが、農業分野では半数以上に認知されておらず、プログラムでも取組を発信する必要がある。

「産業現場実習」の仕組みについて知っていますか？（単一回答）

♣ 農業関連企業・法人

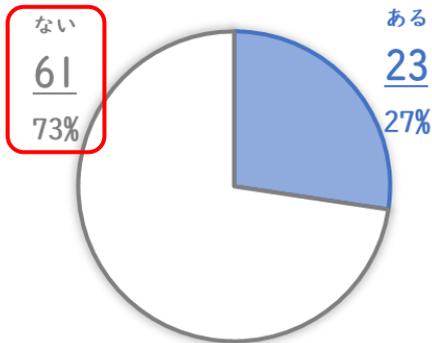


■生徒の「就職活動」の仕組みである産業現場実習は、企業等では約7割が認知されておらず、情報発信の必要と、連携を強めて推進する必要がある。この認知度が高まらなければ、就労する生徒の数も増えない。

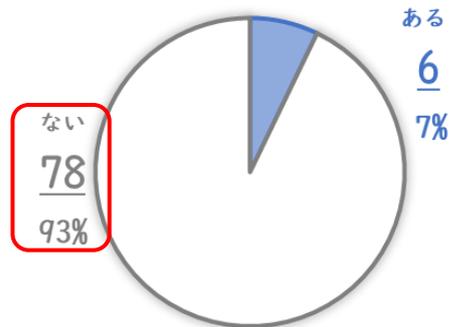
「障害のある人の雇用」「特別支援学校生徒の採用」は？（単一回答）

♣ 農業関連企業・法人

障害のある方の雇用実績は？



生徒の採用実績は？

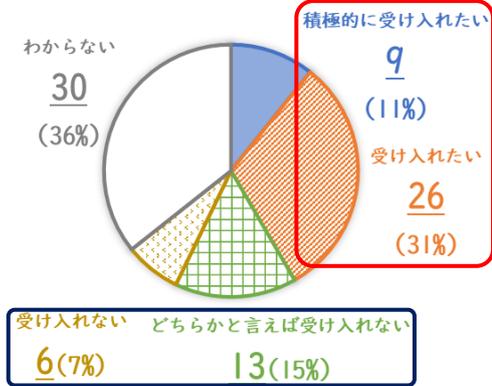


■企業等での障害者雇用は進んでおらず、特に、特別支援学校生徒の学卒採用の実績は10%に満たない。プログラムには、企業等からの特別支援教育や障害特性の理解を促す情報発信の工夫が強く求められる。

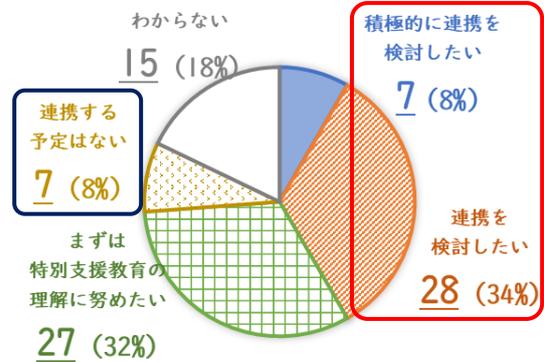
今後の「産業現場実習の受け入れ」と「学校との連携」は？（単一回答）

♣ 農業関連企業・法人

現場実習の受入



特別支援学校との連携

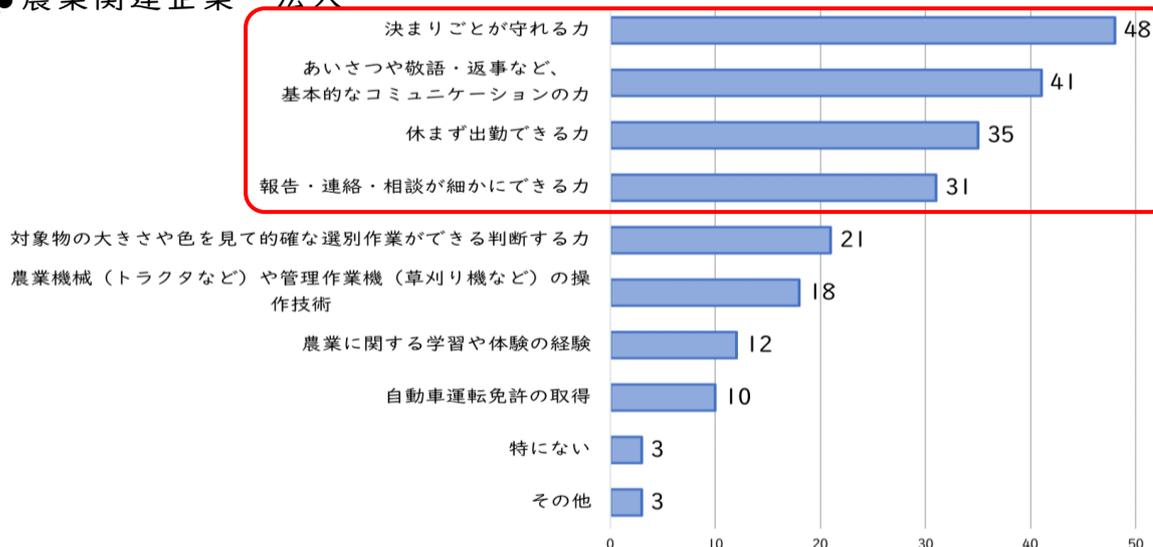


■産業現場実習受け入れは、肯定的な回答が計42%と否定的な回答の計22%を大きく上回る。学校との連携も同様で、計42%が肯定的であり、否定的な回答は8%にとどまることから、学校と農業分野の情報共有ができれば、今後現場実習の受入をはじめとした連携は拡大していくと考えられる。



特別支援学校生徒を採用する場合どんなことを求めますか？（3つ以内で回答）

♣ 農業関連企業・法人

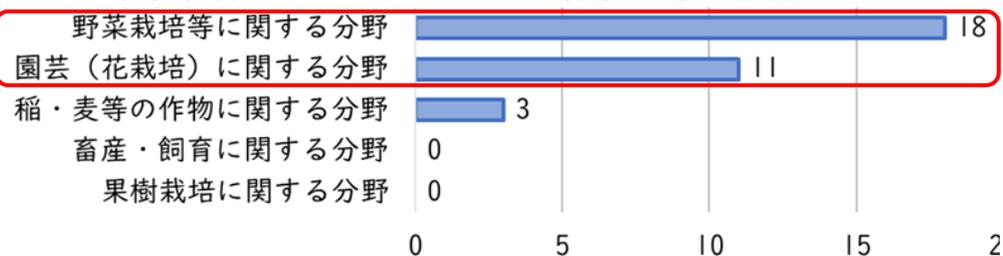


■企業等は学卒者に高度な知識や技術よりも一般職業人に必要とされる「力」を求めており、作業学習等を通じて意識的に取り組む必要がある。プログラム作成においても、農業に関する知識や技術を指導しながら、企業・法人が求める社会人としての力の育成に関する内容を取り入れる必要がある。

学校の作業学習分野と、農業関連企業・法人が適性を感じる分野（複数回答）

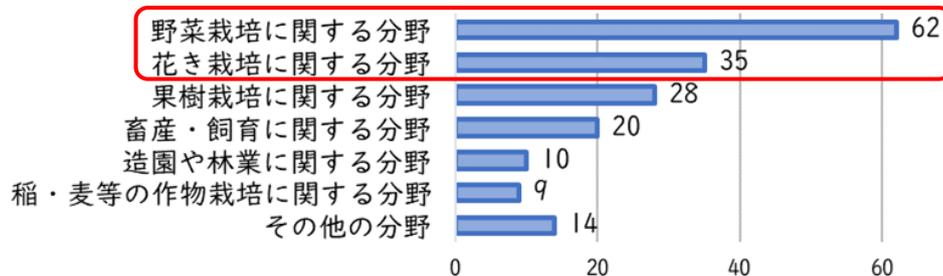
♥ 特別支援学校教職員

作業学習では、生徒はどんな農業分野を学習している？



♣ 農業関連企業・法人

障害のある方が適性がある農業の分野は？



■回答のあった全ての学校で野菜栽培の学習に取り組み、次いで園芸に関する学習内容が多い。企業等も両分野への障害のある方の適性を感じており、プログラムの中心に据える必要がある。

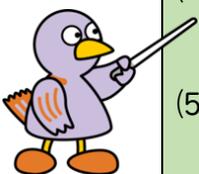
3 考察

アンケート調査の結果から、「農福連携」の理解は、特別支援学校・企業等において十分に進んでいないと考えられる。しかし、「今後推進していくべき」であるという考えは約9割が共有しており、本調査研究においても積極的に就労支援に取り組んでいく必要性を確認した。

また、多くの特別支援学校で年間を通じて農業に関する作業学習に取り組んでいるが、農業に適性のある生徒の農業分野への就労に必ずしもつながっていないことも明らかとなった。特別支援学校の生徒が農業関連企業・法人を就労先の選択肢にすることや、企業等が生徒を積極的に採用することも一部を除いて進展していない。その原因として、学校と企業等の相互の情報・理解不足による連携の少なさがある。学校では地域の農業や産業形態・雇用形態の情報が不足している一方、企業等においても特別支援教育そのものや知的障害の特性についての理解が進んでおらず「作業学習」での取組や「産業現場実習」の仕組みへの認知度も低い。これらの理由により、就労に直結する産業現場実習の件数も増加せず、学校による実習先の新規開拓にも至っていないと考えられる。

これらのアンケート分析の結果や協力委員会における委員の提言、特別支援学校を訪問して得られた情報や知見を基に就労支援のための「作業学習プログラム」を作成するにあたり、以下の視点を踏まえることとした。

- (1) 作業学習の充実による生徒の成長を主眼に、そこで得た知識・技術を就労先の農業現場で活かせる人材の育成に資する内容とすること。またその際、農業の知識・技術だけでなく「社会人としての力」の向上に関する内容を含めること。
- (2) 農業を専門的に指導できる教職員が全ての特別支援学校に配置されているわけではないことを踏まえ、全ての学校で取り組みやすい構成にすること。
- (3) 各校の「作業学習」での取組や、「産業現場実習」の仕組みを企業等に周知する内容を取り入れて情報発信し、連携強化を図ること。
- (4) 企業等の障害者雇用に関する不安を払拭するため、特別支援学校生徒の「できる！（仕事の可能性）」を発信し、就労に結びつけること。
- (5) 作業学習に関する基本の部分をおさえつつ、近年のスマート農業やICT化に関する情報を盛り込み、随時内容の更新を図る工夫を取り入れること。



Ⅲ 協力委員会での協議

協力委員に埼玉福興株式会社（熊谷市弥藤吾）代表取締役・相談支援専門員 新井利昌氏【=右写真】（日本農福連携協会理事・農福連携自然栽培パーティ全国協議会理事・全国障害者雇用事業所協会常務理事関東甲信越ブロック長）を委嘱し、研究への助言を依頼した。3回の委員会では、「学習支援プログラム」の内容や編成について、経営者の視点から示唆に富む多くの提言を頂いた。



Ⅰ 第Ⅰ回 令和4年5月9日 総合教育センター江南支所



(Ⅰ) 基調講演

農福連携の現状について「農福一体のソーシャルファーム」

埼玉福興株式会社 代表取締役・相談支援専門員 新井利昌 様

（一般社団法人日本農福連携協会 理事）



熊谷市内で野菜・オリーブ等の栽培に障害者雇用を推進しながら取り組まれている新井様から、農福連携の現状や経営者として行われている事業の内容についての講演があった。農福連携についての理解をより深める素晴らしい機会となった。

【講演要旨】

● 障害者雇用の視点

- ・ 全てを任せるのではなく、「苦手なことはやらせない」ことも必要。

仕事に人を合わせるのではなく、障害に応じた作業を作り、すべての障害者に仕事を創出することが必要。

- ・ 作業上のテクニックよりも「働くマインド」が肝心。
- ・ 農福連携の展開にはプロフェッショナルとのシェアが必要。

障害者が不得手な作業は、地元の農業資材会社、白菜組合、オリーブオイルソムリエ協会などとの連携により分業化し、経営を効率化。

- ・ 生産者だけが赤字、あとは黒字という体系はあってはならない。
- ・ 社会的農場（Social Firm：ソーシャルファーム）という考えが必要で、会社だけで抱え込まない体系づくりも必須。
- ・ 農場全体を考えたレイアウトや作業工程の分割（単純化）が必要。
- ・ 障害の特性に応じた治具（じぐ）の開発が必要。

【資料】 埼玉福興株式会社（代表取締役 新井利昌様）

所在地 熊谷市弥藤吾

経営規模 水耕栽培ハウス 2,241 m²での葉物野菜のほか、露地・野菜ハウスを合わせて 5.3ha でネギ等を生産。また、2 ha の農地でオリーブを栽培。

主力商品 露地での玉ねぎ、白菜、オリーブの栽培、
水耕栽培でのサラダほうれん草、水菜、ルッコラ等

取組概要 ○ 就労継続支援 B 型事業所やグループホームを運営。34 名の障害者が、施設での水耕栽培、ネギ苗の育成、露地での玉ねぎ、白菜、オリーブの栽培に従事。
○ 触法障害者、ニート、引きこもりなど社会的支援を必要とする人を積極的に受入。

取組成果 ○ 水耕栽培、露地栽培、果樹栽培の組み合わせにより一年を通した農作業を創出。
○ 埼玉県の平均工賃を上回る 20,000 円/月を実現。また、自社及び他企業へ 4 名が一般就労。
○ 就労だけではなくグループホームなどによる生活支援により、約 15 年もの間、再犯しない触法障害者も在籍。地場産業である畜産に取り組むことで、障害者が自然な形で地域社会に受け入れられている。

受賞歴 ○ OLIVE JAPAN2016 国際オリーブコンテスト金賞
手作業でオリーブを生産し、品質が世界的に高く評価されている。
○ 2019 年 第 43 回山崎記念農業賞
○ 2020 ノウフク・アワード優秀賞 等

(2) 協議方法

- ・委員・事務局を2グループに分けて協議した。

(3) 協議内容

- ・農福連携に関する意見交換（各校の現状共有）
- ・作業学習プログラム（全体・項目別）の構成について

【協議発言要旨】

● プログラム（全体）「農業分野で活躍しよう！」について

- ・「学習の見通しを示して、生徒の不安を減らします」

例) 見やすい場所にタイマーを置きます。

- 生徒一人一人が腕時計（アナログ）を装着し時間を意識している。
- 残り時間が視覚的にわかるタイマーを使って個別に指導している。
- 作業する場に大きなアナログ時計をかけている。

例) 作業内容の進行を「見える化」します。

- 仕事量を示し「これが終わらないと休憩にならない」と伝える。
- 作業手順を、絵や写真を示したり「1 2 3」と数で示したりする。

● プログラム（全体）「特別支援学校の取組」について

例) 企業に生徒の力をアピールする内容

- S-GAPの認証を受けていること。
- 農福JASなどの検定や申請、認証を受けていること。
- トラクタや農業機械についての扱いもしていること。

例) どこかの箇所に、片付けの仕方や片付け方などを入れてほしい。

新井委員より

- ・取組が書いてあることによって、企業は資格や検定を行っていることが分かり、安心するので載せたほうが良い。
- 働く上で、片付けることはとても大切です。

● プログラム（項目別）「作業学習」の編成について

例) 年間の作物カレンダーのようなものがあると助かる。

- いつ播種して、収穫するのはいつごろなどが分かるものがあると、栽培の見通しがもてる。

● プログラム（項目別）「作業機械」について

- 名前だけではなくどんな場面で使うかなどの扱い方があるといい。
- 機械も扱えるというアピールにつながる。

新井委員より

こうしてやっていることを企業にアピールしてほしい。

基本をしっかりやってもらっていることをありがたいと思う。

しかし、企業にもゆとりが必要。生産性だけを考えるのはいけない。

(2) 協議方法

委員・事務局を2グループに分けて協議した。

(3) 協議内容

- ・「作業学習プログラム」の所属校での実施による作業部分の改善
- ・プログラムの全体的な編成と、利用者を意識した内容の精選
- ・農業分野企業・法人（雇用側）を意識した情報発信内容の検討

【協議発言要旨】

● 就労支援のための作業学習プログラムの内容検討

- ・活用者をより明確化する必要がある。誰に向けてのプログラムなのか。
→学校教職員。表紙等に明示する。その上で農業とつながるものに。
- ・学校への支援が集中している。企業が求める生徒を育成する部分が欲しい。
- ・企業とのマッチングをいかにするのかを考える必要がある。
- ・企業に向けて発表することで企業の不安も解消できるのでは。
- ・栽培暦だけでなく連作・株間・条間・畝幅などの解説があると良い。
- ・使役表現については、より減らしていく必要がある。
- ・プログラムがあれば、担当者の入れ替わりの際も教材として使える。
- ・生徒の意欲向上のため、農業に関する専門用語をあえて使用する学校もあるので解説は残したほうがよい。
- ・作業項目別の部分については「身に付けて欲しい力」「支援の視点」が適切か確認する必要がある。
- ・ローテーション学習は全体で行う場合ありきでなく個々に合わせるべき。
- ・高等部としては、シンプルな支援でプログラムを作成したい。
- ・栽培について「分からない時にどこに聞けば良いか」が分かると良い。
- ・広報については、全国紙に情報提供すると良い。
- ・地域の就労や協力の可能性があるところに出向くと良い（校外との連携）
- ・QRコードを活用しての情報提供が効果的である。
- ・プログラムの活用には「困り感」のある職員への活用を促す。
- ・初任者研修（新任研修）でも使うと良い。初任者を農業に取り込み、採用初期から農業に興味を持ってもらう。
- ・特別支援学校高等部だけでなく、小学部・中学部、また、特別支援学校でない小学校・中学校でも活用できるのではないか。
- ・SDGsの視点で発信できると良い。
- ・S-GAPの認証や農福JASについても情報発信できるとよい。
- ・農業機械の取り扱いもできること、農業技術検定への挑戦も発信したい。



3 第3回 令和4年12月2日 総合教育センター江南支所



(I) 実践報告

研究の進捗報告と研究成果の発信戦略

総合教育センター江南支所 山本裕夫（事務局）

研究進捗報告（振り返り）

1. 農福連携等応援コンソーシアム総会
2. 文部科学省・農林水産省との連携
3. 障害者雇用のある県内企業の現地視察
4. ノウフクWEBでの当研究内容の発信
5. 農福連携等応援コンソーシアム「ノウフク座談会」での取組

これまでの成果の振り返りと、今後のプログラムを活用しての広報活動についての説明を行った。また、農福連携等応援コンソーシアムへの加入や文部科学省・農林水産省や日本基金との関わり、ノウフクWEBでの情報発信についても報告を行った。

（スライド資料抜粋）



(2) 協議方法

協力委員・事務局を2グループに分けて行った。

(3) 協議内容

- ・ 就労支援のための作業学習プログラムの内容 最終検討
- ・ 研究成果物「作業学習プログラム」の活用戦略・情報発信検討

【協議発言要旨】

● 学習支援プログラムの内容について

- ・ 活用者→主に教諭が使用。

理解できる児童生徒には予習や復習の学習用として活用してもよい。

(写真だけを見ても、作業内容が分かるのがとてもよい)

- ・ 雨の日の作業について→作業例が書いてあるのはとても助かる。
雨の日の作業用として、ごま 大豆 小豆 を栽培しておく。
- ・ 間引きの支援の仕方について簡単に書いてあるとよい。
間引きが自分でできるようになることが最終目標。何も言わないと全部抜き取ってしまう。例:理解している生徒とそうでない生徒をペアにする。
- ・ 防虫や防草などに関するページや参考にすればよいサイトを掲載する。
この雑草にはこの除草剤、この虫にはこの防虫剤みたいなもの。
- ・ 栽培に関する悩みが出てきた時に
→テキストの最後に問い合わせ先を明記して、質問を受け付ける。
受け付けた質問に対しては、HP上で「こんな質問がありました」と質問内容を蓄積していく。似た質問が来た場合にはHPで確認できる。
- ・ 用語については、授業の中で必ず使ってもらう。

● プログラムの活用戦略について

- ・ 授業で担当者に使ってもらうほか、校内研修などで使ってもらい、どう使ったかのフィードバックを依頼して活用状況等を内容の改訂に活かす。
- ・ 特に農業に慣れていない初任者には必需品となる。
→プロジェクターで投影して作業手順の確認などに使う。
- ・ 農家に渡して取り組みを知ってもらい、現場実習先として考えてもらう。
- ・ 生徒の手の届くところに置いておき、いつでも見られるようにする。
- ・ 進路指導部にも渡して活用してもらう。
→農業関係の企業には作業プログラムのチラシを同封してもらう。

● 研究事業全体の広報活動について

- ・ 協力してもらえそうな企業を、進路相談担当の先生に相談する。
- ・ 協力してもらえそうな企業にこちらから連絡を入れる。
- ・ 作業プログラムチラシを作成しQRコードを載せる。
→JAや販売会などで広く知ってもらう。

Ⅳ 就労支援のための「作業学習プログラム」の作成

1 作成方針

事務局が原案を作成し、委員会での協議の内容を踏まえて作成した。特別支援学校教職員対象アンケート調査、農業関連企業・法人対象のアンケート調査の結果も反映し、必要な内容を精選した。

研究協力委員会での提言

- ★教職員対象のプログラムに
- ★農業経験のない人にも解りやすく
- ★特性に応じた支援の工夫の共有を
- ★写真やイラストで分かりやすく

農業分野アンケートの結果

- 作業学習の取組は認知度が低い
- 産業現場実習の仕組みを知らない
- 特別支援教育の理解が進んでいない
- 知的障害特性の理解が進んでいない

(資料は令和3年度末時点のプログラムです)

特別支援学校アンケートの結果

- ◆基本的な農業の技術を学ばせたい
- ◆野菜や花の栽培に取り組む学校が多い
- ◆農業で働くことの意義を理解させたい
- ◆就労先企業の情報と連携が必要

特別支援学校からの意見・情報

- 誰が見ても分かるプログラムに
- 学習の「見通し」を持たせる工夫を
- 作業上の安全確保の方法が知りたい
- 年間計画があると取り組みやすい

2 委員の提言を生かしたプログラムの完成

委員会での提言を反映し、作業説明の他に「身につけてほしい力」や「特性に応じた留意事項」を加えて作成した。また、農業関連企業・法人との連携や情報発信の必要性に鑑み、特別支援教育への理解を促す内容を加えて完成した。



こちらからご覧ください

対象を明記

埼玉県
特別支援学校
農業学習の担当者向け
雇用者へのPR
ノウハウ
障害者雇用をお考えの
事業者様ぜひご覧ください

農業分野で活躍しよう!

特別支援学校生徒の農業就労に向けた学習支援プログラム

- ★ 農福連携の取り組み
- ★ 作業学習の年間計画モデル
- ★ 作業学習プログラム
- ★ 特性に応じた支援の工夫
- ★ 農業関連用語・用具集
- ★ 特別支援学校の取組



農業分野の学習を担当する先生方へ

趣旨の明確化

埼玉県立総合教育センターでは、特別支援学校で学ぶ生徒の特性を考慮し、合理的配慮を示した「農業分野の学習プログラム」を作成しました。

このプログラムを作業学習等で利用することで学習の内容を向上させ、生徒が農業分野への興味関心を高め、就労機会の充実に結び付くことを期待しています。本プログラムが農業分野の学習を担当される先生方にとっての、指導の一助になれば幸いです。



農業従事者の皆様

埼玉県の特別支援学校では、多くの生徒が農業に関する学習に取り組んでいます。しかし、農業分野への就労者は多くなく（令和4年3月卒業就職者353名のうち、農林漁業作業者は9名）、埼玉県立総合教育センターでは今後積極的に後押ししたいと考えています。このたび、各校での農業に関する学習がより充実し、児童・生徒達に農業を将来の職業として意識してもらえるようにするため、当プログラムを作成しました。各校における障害特性に応じた取組も多く紹介しています。趣旨をご理解いただき、障害者雇用への理解が今後一層進むことを期待します。



令和3・4年度 埼玉県立総合教育センター 調査研究事業

雇用者へのメッセージ

特別支援学校生徒の農業就労に向けた 学習支援プログラム



障害者雇用へ導き、「地域の中で働く1人」の戦いへ

社会で！ 食べ物を育てる産業である農業。農業分野での障害者雇用を目指したプログラムを作りました。障害者雇用を考えると、実はどんな人でも働ける仕組み作りとなり、企業経営ではとても大事な視点。このプログラムが、障害があっても「農業を支える1人の若者」として活躍していける、やさしい社会の扉となることを願っています。



埼玉福興株式会社 代表取締役・相談支援専門員 新井利昌 様 より

(一般社団法人 日本農福連携協会 理事)

(一般社団法人 農福連携自治体地へーティ全国協議会 理事)

(公益社団法人 全国障害者雇用推進財団 常務理事・農福連携推進部長)

(農福連携推進員 農業プロフェッショナル 農福連携推進員)

企業からの推薦文を掲載

農業学習から見た栽培の流れ

- 計画・土づくり・播種から収穫・出荷まで -



計画

- ◆種類・栽培量選び
- ◆出荷先選び
- ◆事前学習 等



学校にある畑（学校ファーム等）の広さや使用できる道具、生徒数・教職員数等を考え、栽培するものの種類や規模、時期等の計画を立てます。

知選

- ◆日当たり確認
- ◆事前踏査
- ◆ローピング 等



植物の性質に合わせて、「計画」で決めた種類を栽培する場所を決めます。栽培する植物がどの程度葉や茎を広げるのか、どのくらいの数を植え付けるのかで広さを、植物の性質により日当たり具合等を考えます。

はしっ 播種

- ◆直（じか）まき
- ◆育苗ポット
- ◆育苗トレー 等



種まきのことを「播種」といいます。栽培から収穫までを行う畑や花壇に直接種をまく方法（直まき）や、育苗ポットにまく方法、育苗用のトレーにまく方法等があり、植物によって使い分けます。

土作り

- ◆土壌改良
- ◆施肥（せひ）
- ◆耕うん 等



日本は雨が多く、土は酸性のところが多いです。植物には酸性を嫌うものが多く、中性に近づけておく必要があります。また、植物の成長に必要な肥料を施し、根が

農業が初めての職員にも分かるよう 学習（栽培）の流れを解説

* の用語・用具には後ページに解説があります。

作業学習 ①

播種 (直まき栽培と移植栽培)

1 学習について

植物の栽培には、畑に直接種まきをして育てる方法(直まき栽培)と、ハウス内などで育苗してから、畑に移植(定植)して育てる方法(移植栽培)があります。種類によって移植を機うものと、直まきよりも移植を好むものがあります。この両方の方法を学ぶことが大切です。

就労に向けて 身につけてほしい力を明記

2 身につけてほしい力

★ 基本的な力 ★★ 応用的な力 ★★★ 発展的な力

学習内容	就労に向けて生徒に身につけてほしい【力】
(全体)	繰り返し同じ作業を行う【継続する力】 個々の作業の開始や終了を随時【報告する力】
★ 作業場所を準備する	作業の流れを考え、より良く資材を配置する【工夫する力】
★★ 直まき(点まき・条まき)	決められた数の種をまく【継続する力】 一定の間隔に種をまく指先の【器用さ】
★ 苗床に土を入れる	一定量の土をすくい、こぼさないように入れる【調整する力】
★★ 苗床に種をまく(平床トレー・プラグトレー・育苗ポット)	平床トレー：一定の間隔に種をまく指先の【器用さ】 ばらまきと条まきを混同しない【識別する力】 プラグトレー・育苗ポット：まき残しを【確認する力】
★★ 種まき後の管理	発芽までを観察し、被覆資材を適期に取り除くことで徒長させないようにする【主体的に行動する力】

3 準備するもの

- 育苗トレー (平床トレー、プラグトレーなど)
- 土すくい(土をすくうカップ)
- 育苗ポット(ポリポット)・連結トレー
- 種・平たい皿・培養土・へら
- トロ舟(トロ箱)・バケツ・運搬車

4 生徒の準備

- 作業用手袋
- 時計(防水のもの)
- 帽子・水分・タオル 等

(実習の前までに爪を切っておく)
(実習着の裾をズボンに入れておく)

- 11 -

アンダーラインで用語解説ページと」連動

5 学習内容と支援

	内 容	支援の工夫
①場所選び	野菜の種類によって1株に必要な面積が異なるため、 工程には写真を多用 して面積を計算します。(種の数などから面積を計算して)	
②作業説明	イラストや写真を使って作業内容を説明します。	
③穴あけ	無孔(穴なし)マルチには、メジャーで間隔を確認しながらマルチ用穴あけで穴をあけていきます(有孔マルチの場合はそのまま定植します)	<ul style="list-style-type: none"> ♥穴あけの先端はノコギリ刃状になっているので、注意に課題のある生徒は特に扱いに気を付けます。 ♥数値認識の難しい生徒には穴あけの場所を支援します。
④植え付け	<p>a 苗の配置</p> 穴の場所に育苗ポットに入った苗を並べていきます。	♥植え付ける前に苗の過不足を確認することで間違いを減らします。
	<p>b 植え穴と苗の準備</p> 移植ごてで植え穴を掘り、根鉢を崩さないように、育苗ポットから苗を逆さにして取り出して置きます。	♥苗は弱いので、茎を持って引っ張り出すことなく、ポットを逆さにして取り出すようにします。
	<p>c 定植</p> 植え穴に苗を植え付け、マルチ内の土を株と隙間がきないように寄せて、軽く土を押さえます。	♥最初は正確さを重視し、スピードを求めません。繰り返すことでスピードが向上する生徒が多いです。
	<p>※根が乾かないよう、手際良く行うことが大切です。</p> <p>※ポット内の土と畑の土の高さが揃うようにします。</p>	

特別支援教育での
支援の視点を明記

学習全般での 支援の視点

6 支援の視点

- ☑ 植え付け後の管理を通して植物の成長過程を実感し、主体的に学ぶ価値を実感することができます。
- ☑ 同じ種類の野菜を同じマルチに植え付けていくと管理や収穫も効率的ですが、生徒個々が様々な野菜の栽培を体験できるようにするには、野菜の品種ごとではなく生徒ごとに栽培区域を区切って「マイ畑」を作るのも学習になります。
- ☑ 苗をポットから取り出す作業、誘引(植物の茎をひもで支柱に結ぶ)など、繊細な工程があります。最初は難しくても、「それで大丈夫だよ」というさりげない評価がモチベーションのアップにつながります。

特別支援教育での 留意事項

7 特性に応じた留意事項

- ♥ 注意力に課題がある生徒には、植え付ける前に苗を置いた場所を確認できるようにします。
- ♥ 作業スピードによっては、育苗ポットから出した苗が植え付けまでに時間がかりそうな場合、事前に育苗ポットのまま水に浸して、乾きにくくしておきます。

8 栽培の基礎知識

植え付けに適期となった苗の大きさは

- ① キュウリ・・・本葉3～4枚
- ② ナス・・・本葉5～7枚
- ③ トマト・・・本葉8～9枚でつぼみがあるものです。

良い苗の特徴には、

- ① 茎が太い
- ② 節間が狭い(短い)
- ③ 葉色が濃い
- ④ 子葉が残っている
- ⑤ 育苗ポットの底から根が出ていないなどがあります。

それぞれの野菜で茎や葉の展開の広さや高さが変わります。植え付け(マルチ穴)の間隔や支柱の高さなどは栽培する種類に合わせて変えます。

初期に使用する支柱は苗を支えるためのものです。苗が小さいうちは小さな仮支柱にし、伸びてきたから本支柱を立てます。

- 26 -

栽培の基礎知識

特性に応じた 支援の工夫を収集

特性に応じた補助用具の工夫

障害の特性に応じて、作業学習がしやすくなる用具を開発して、作業する際の補助用具や、視覚的な支援から事故の防止の観点まで、あらゆる支援のための用具が各校で作成されています。実際に各校で使用されている支援のための用具や表示の工夫を紹介いたします。

例①「しゅー農くん」の活用



クワなどの倒れやすい用具の収納には、専用治具の紹介

例②「はかるくん」の活用



「重量」を確認してから、検

例③「しゅーかくん」の活用



収穫の時に、収穫して良いかを大きさで判断するための補助用具を収穫用ハサミに取り付けます

包装資材選びにはイラストを活用します



調整(袋詰めなど)に作物ごとに資材を変える必要がある場合、イラストで支援します

使用の前後をわかりやすく表示します



軍手など、使用の前後が分かりにくいものはイラスト付きの大きな文字で分別します

作業に使う道具をサイズを把握します



移植ごて等の既に有るものを活用して、植物の植え付け間隔の目安にします

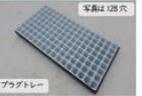
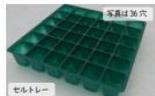
委員所属校での好事例を紹介

- 45 -

委員所属校での好事例を紹介

用具の名前と用途を解説

作業学習に使う用具

 <p>平床 (ひらどこ) トレー 水の浸透が均一で生育が強い、鉢上げや定植まで使います</p>	 <p>育苗トレー 下部分が網目になっているものは水切りにも使えます</p>	 <p>育苗128穴 育った苗をプラグのように押し込んで移植する育苗トレーです</p>
 <p>セルトレー 細胞 (セル) のように四角く仕切られた育苗用のトレーです</p>	 <p>ラベル (種目・種類・管理番号) 栽培している植物の種目・種類・管理番号等を記しておきます</p>	 <p>育苗ポット (ポリポット) 育苗トレー等から鉢上げして畑や花壇に定植する前の苗を育てます</p>
 <p>連結トレー 育苗ポットを入れて運搬したり整理したりするのに使います</p>	 <p>ならし板 畑の土表面をならすのに使います</p>	 <p>へら トレーから苗を取り出すときや植え穴を掘るときに使います</p>
 <p>土すくい 定量の土を育苗ポットなどにすく入れるときに使います</p>	 <p>移植て 畑や花壇に苗を定植 (移植) する際に植え穴を掘るのに使います</p>	 <p>穴あけ (楕円) ローラー 土を入れたトレーの上を転がして鎮圧し、播種用の穴をあけます</p>
 <p>作業用イス 座った姿勢で作業をするときに使い、浴室用のイスが役立ちます</p>	 <p>作業用イス (移動) 座った姿勢で機移動しながら作業を行なうときに役立ちます</p>	 <p>箕 (G) 作業場所の片付けや落ち葉清掃等、幅広い用途に使用します</p>

- 49 -

基本的な用具は写真付きで

美化作業をPR

校内の学習環境を整備!



機械の操作にチャレンジ!



機械の操作もPR

生産物をお客様に販売!



作業学習の成果を出展!



- 54 -

企業向けに実績をPR

農業分野で働こう!



◆企業や農業法人が求めるもの (アンケート*結果より抜粋)

*1 調査期間 令和3年11月8日~11月31日

*2 調査対象 県内の農業関連企業・法人 154 箇所 (84 箇所より回答あり)

こんな生徒が求められています!

- ☑ 決まりごとが守れる!
- ☑ 誰にでもあいさつができる!
- ☑ 敬語と返事ができる!
- ☑ 基本的なコミュニケーション力!
- ☑ きちんと報告・連絡・相談!
- ☑ 分からないことは意志表示!
- ☑ 判断する力がある!
- ☑ 作業中の集中力がある!

【質問】特別支援学校生徒を採用する場合、どんなことを求めますか

【質問】特別支援学校生徒の農業分野への就労について、期待することがあれば教えてください より

アンケート結果の詳細は【令和3年度中間報告書】をご覧ください。

作業学習等で意識して取り組みましょう



アンケートから見えてきた

企業が生徒に求めることを列記

- 52 -

お問い合わせフォームを作って 継続的に農業学習をサポート プログラムに関する

お問い合わせはこちらまで

<https://forms.gle/fnvBYw3i5zeZ9oQK6>

Google Formが開きます

学校

もっと上手に栽培したい!

肥料や農業について知りたい!

研修を受けてみたい!

農業者様もお考えの事業者様もぜひお問い合わせください

農業事業者

特別支援学校を知りたい!

生徒の実習を受け入れたい!

生徒の採用を検討したい!



埼玉県立総合教育センター江高支所は
農産物産地産コンソーシアムの賛助会員です



【作成 令和3・4年度調査研究協力委員会】

埼玉福興株式会社

川崎特別支援学校たかしな分校 羽生ふじ高等学園 さいたま桜高等学園

深谷はばたき特別支援学校 入間わかさ高等特別支援学校

埼玉県立総合教育センター 特別支援教育担当

同 農業教育・環境教育推進担当 (事務局)

令和3・4年度 調査研究 「特別支援学校生徒に対する農業分野への就労支援」 特別支援学校生徒の農業就労に向けた学習支援プログラム

埼玉県立総合教育センター江高支所 農業教育・環境教育推進担当

〒360-0113 埼玉県熊谷市御正新田 1355-1

TEL 048-536-1586 FAX 048-536-1710

<https://ecswb.center.spcc.ed.jp/1001/>

農福連携の動きを紹介

V 研究成果の情報発信と広報戦略

研究成果がより効果的に教育活動で活用されるよう、また、県内外に研究成果を広く発信できるよう多くの機関と連携しながら事業を展開した。

I 文部科学省・農林水産省による本県特別支援学校の視察随行と意見交換

両省担当課と協働し、本県の特別支援学校における農業分野の学習について視察を実施した。両省より3名ずつ来県し、特別支援学校羽生ふじ高等学園における農業専門学科での学習と、深谷はばたき特別支援学校における普通科での作業学習について視察し、農福連携に関する意見交換も行った。



【図】意見交換の様子

(I) 視察

ア. 実施日 令和4年9月15日

イ. 実施校 専門学科：特別支援学校羽生ふじ高等学園（羽生市下羽生320-1）
普通科：深谷はばたき特別支援学校（深谷市本田50番地）



(2) 農福連携に関する意見交換

ア. 実施日時 令和4年9月15日 午後2時40分～午後3時50分

イ. 実施場所 埼玉県立深谷はばたき特別支援学校 会議室

ウ. 参加者 文部科学省3、農林水産省3、県立学校部3、
総合教育センター江南支所2、会場校2 計13名

【意見交換発言要旨】

1. 総合教育センター江南支所

○当研究の概要説明

- ・県内の特別支援学校、農業経営体に関する調査・研究を実施
- ・教職員や農業分野企業・法人からの行政への要望
- ・「作業学習支援プログラム」を完成させ、全ての特別支援学校に提供予定

2. 文部科学省

- ・農福連携を進めているが、農業団体と「学校」との連携が進んでいないように感じる。どうすればよいのか、国でも考えているところ。
- ・農業団体が求める生徒像を知っているのなら教えてほしい。または企業の声などあれば教えてほしい。

3. 総合教育センター江南支所

- ・通勤手段、怪我、コミュニケーション、どこまで出来るか等がある。
- ・トラック等の運転をはじめ、大型特殊自動車の運転操作を要望している。
- ・企業であって教育機関ではないので、教えるためのスタッフが不足。
- ・日本農業新聞（8月26日）：農福連携技術支援者は充実しつつある。

4. 深谷はばたき特別支援学校

- ・就労しても辞めてしまう生徒もいる → 1回辞めると自信を無くす。
- ・ある程度やりがいを感じさせながら作業に取り組む必要がある。

5. 特別支援教育課

- ・学校の進路指導担当の意見「現場実習を受け入れる場所が少ない」
- ・体力が続かない者も多い。
- ・教職員が思っている以上に、農家の要望のハードルが高い。

6. 文部科学省

- ・コミュニケーションや人間関係の力については、農業に限らず自立活動や職業の時間などで取り組まれている。
- ・カリキュラムで授業をしっかりと実施してスキルアップすることが必要。
- ・就職先の求めるレベルに達していないのであれば、策を講じなければならない。
- ・車の免許や職業実践は文科省だけでは難しいが、国全体としての対応を考えなければならない。

7. 総合教育センター江南支所

- ・農業でも決まり事が守れる、挨拶、報連相など、基本的にどの職業でも求められているものを求めている。

8. 農林水産省

○「農福連携をめぐる情勢」について、資料を用いての説明

- ・農福連携の取組方針と目指す方向 ・農業農村の課題と福祉の課題
- ・様々な角度から広がる農福連携 ・農福連携を契機とした農業経営の発展
- ・農業分野における障害者の活躍への期待 ・農福連携等推進会議
- ・現状と課題（知られていない、踏み出しにくい、広がっていない）
- ・農福連携対策事業、および交付金 ・農福連携等応援コンソーシアム
- ・ノウフク・アワードについて

9. 特別教育支援課

○両省より事前に伺った質問の事項に沿って回答

- ・埼玉県農福連携の現状と課題について（文部科学省より質問）
 - 特別支援学校高等部進路先 進路状況集計表を確認
 - 現場実習を繰り返して就職を目指す、受け入れる事業者は少ない。
- ・国にしてほしい事業とは（文部科学省より質問）
 - 就労支援の連携を事業別に図にまとめたものを示す。
障害者雇用推進に向けたモデル推進事業「チームぴかぴか」を紹介。
障害のある人たちが支援を受けながら働いている事例を示してほしい。
 - 企業や学校を紹介いただきたい。
- ・農業班の活動内容や人数を知りたい（農林水産省より質問）
 - 学校によって違うが職業学科のある学校では20-30名程度。
- ・現場実習・就労の実績は（農林水産省より質問）
 - 県内の就職者のうち9名が農業分野に就労。
- ・特別支援学校で農業学習を行っている割合（農林水産省より質問）
 - 障害者雇用を始める企業に配布している資料では職業学科3校だが、作業学習に取り入れている学校は多くある。

10. 深谷はばたき特別支援学校

- ・秋野菜の栽培を行っている。25種類の野菜の栽培をしている。
- ・パンジー・ビオラの栽培では、1～6時間目を通して作業をしている。
- ・高学年が低学年に指導できるようにしている。
- ・生徒同士で主体的に進められるよう心がけている。

11. 農林水産省

- ・「ノウフク・アワード2022」を実施しているので埼玉県も参加してほしい。
- ・農業の希望者もいるため、企業や農家とマッチングする必要がある。
- ・個々でのマッチングは難しいので、JAに相談しながら進めるとよい。
- ・障害者雇用を推進するために、各団体との連携を図っていきたい。
- ・10月5日に会議を開催予定。推進室から取り組みを説明、事例を紹介する。

12. 文部科学省

- ・作業学習では「仕事をする事」を学んでおり、農業を題材にするにはいろいろ課題がある。農業従事者側の理解も必要。農業従事者・企業が特別支援学校に入ってもらうことで指導力の向上や障害者への理解の向上が期待できる。
- ・教員に農業の専門家が少ない。特別非常勤講師制度で農業従事者と一緒に指導できると良いのでは。

13. 農林水産省

- ・農福連携技術支援者の育成では、①農業者、②障害福祉サービス事業所支援員、③障害者に対して連携を実践するアドバイスする人材を育成する。
- ・支援者の育成を行っているがまだまだ少なく、これから広めていく。
- ・基本プログラムがあり、修了証を作成する。埼玉県ではまだ認定者が少ない（1桁）が全国では177名（令和3年度現在）いる。費用は国で補助していく。
- ・認定を受けた方が特別支援学校で働くのも可能になるのでは。

14. 深谷はばたき特別支援学校

- ・企業の希望に対して特別支援学校の要望や目指している像などあれば。
- ・できることをやるが、水耕栽培など繰り返しをすると飽きてしまう。

15. 農林水産省

- ・農業従事者からの要望で実際のアンケート結果と比べて違いはあるか？
- ・直接現場に伺って調査をする機会は少ない。
- ・知的障害の方と農業は相性が良いと話している。
- ・精神障害のある方は調子に波があって対応が難しい面がある。

（参加者）

文部科学省：初等中等教育局特別支援教育課

課長補佐、特別支援教育調査官、指導係

農林水産省：農村振興局農村政策部都市農村交流課農福連携推進室

課長補佐（農福連携企画班担当）、農福連携企画班調整係長

関東農政局農村振興部農村計画課 農福連携推進係長

県立学校部：特別支援教育 課就労支援担当

高校教育指導課 産業教育・キャリア教育担当

総合教育センター江南支所：支所長、農業教育・環境教育推進担当

特別支援学校：深谷はばたき特別支援学校

学校長、作業学習担当教諭



2 農福連携等応援コンソーシアム総会への資料提供

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課と連携し、「令和4年度第2回農福連携等応援コンソーシアム（農林水産省他）総会」において、県立深谷はばたき特別支援学校の作業学習における農業分野の学習の取組が、同課長より全国の会員向け報告された。

- (1) 実施日 令和4年8月2日
- (2) 会場 農林水産省（東京都千代田区霞が関1-2-1）他（オンライン開催）

※報告時のスライド（農林水産省 HP より）※右が深谷はばたき特支の紹介



3 農福連携等応援コンソーシアムへの賛助会員登録の申請

農林水産省農村振興局農村政策部都市農村交流課農福連携推進室に申請し、農福連携等応援コンソーシアムの賛助会員となった。総会資料の閲覧や総会への参加も可能になり、農福連携に関する情報収集や研究成果の情報発信の場となっている。右図の使用も許可された。

みんなで耕そう!



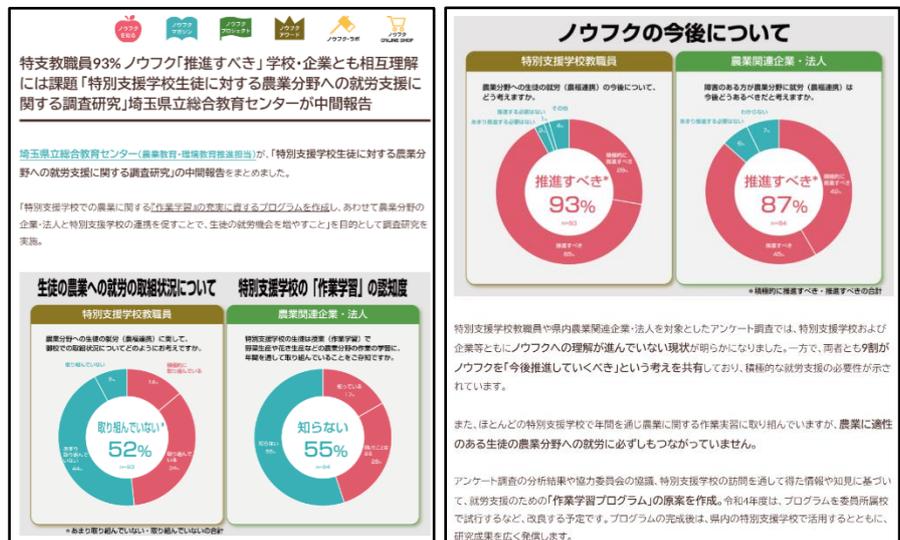
NOUFUKU PROJECT

【図】ノウフクロゴマーク

- (1) 申請日 令和4年9月29日
- (2) 加入日 令和4年11月1日（総会にて認可）

4 ポータルサイト「ノウフクWEB」での研究内容掲載

一般社団法人日本基金（農林水産省登録認証機関第118号、ノウフクJAS認証）との連携により、同社が運営するポータルサイト「ノウフクWEB」において令和3年度の当担当の研究成果を中心に発信された。掲載日：令和4年10月26日



【図】ノウフクWEB ポータルサイト

5 ノウフク座談会での研究内容発信と意見交換

農福連携等応援コンソーシアム事務局と連携し、都内で行われたノウフク座談会に参加して、農福連携に取り組む生産者・加工者との情報交換や、研究の情報発信を行った。当研究の広報を行い、昨年度実施のアンケート調査結果の概要を説明した。作成中の「作業プログラム」についても雇用者・経営者としての視点を頂き、各経営体の雇用状況や障害者雇用の将来展望について意見交換した。



- (1) 実施日 令和4年11月16日
- (2) 会場 Patia市ヶ谷（東京都新宿区市谷田町2-7）
- (3) 実施形態 障害者が生産に携わった商品の販売者によるサンプル出品と商談
- (4) 参加者

農福連携に取り組む生産者・加工者 20 経営体、バイヤー 34 名

農林水産省農村振興局都市農村交流課農福連携推進室長、同農福連携企画班調整係長
一般社団法人日本基金代表理事、同理事、同共生デザイン事業部 他

【情報収集要旨（名刺交換 21 名）】

- ・雇用するためには、定期的仕事があることが必要
- ・農業でのスキルを活かして「一般就労」を応援している
（ずっと農業で働いて欲しい、ではない）
- ・果樹園における収穫作業の労働対価として「収穫した果実」を払う。
→果実をアイスクリームに加工・販売し、売り上げから賃金を支払う。
障害者の賃金上昇のほか食品ロスの減少にも（モデルケースとして注目）

I 農福連携の今後に向けて

【 研究結果 】

特別支援学校



「農福連携」は推進すべき！

- ・ 作業学習で農業に取り組んでいる
- ・ 農作業に適性のある生徒がいる
- ・ 農業関連への就労は限られている
- ・ 農業関連企業・法人の情報が少ない
- ・ 農業分野での現場実習は少ない

(自校での新規開拓は難しい)

企業・法人



「農福連携」は推進すべき！

- ・ 障害のある人の雇用は限られている
- ・ 特別支援教育について理解が少ない
- ・ 知的障害についての理解が課題
- ・ 作業学習の取組の認知度が低い
- ・ 現場実習の仕組みの認知度が低い
- ・ 学校との連携意思のある企業あり

農業就労のための学習支援プログラムの活用



(活用の視点)

- ☞ 作業学習で活用して農業分野への就労を後押し
障害の特性に応じた支援の工夫を全県で共有
各校で取り組んでいる実践事例を全県で共有
農業分野に限らない働き続けるための力の育成
農業学習の充実で生徒の「就農したい」の創出
- ☞ 就労に向けた「現場実習」の仕組みを発信
- ☞ 農業関連の情報を教職員・生徒・保護者に提供

期待される効果

【特別支援学校と農業企業・法人との連携】

- ・ 特別支援学校と農業関連企業・法人の相互理解の促進
生徒の「出来る！」と、生徒を「雇いたい」の共有
- ・ 就労に向けた障害者理解の進展と現場実習の拡充
- ・ 就労機会の向上による障害者の社会参画と農業分野での労働力確保



埼玉県の「農福連携」に貢献！

埼玉県の農福連携に貢献！

2 おわりに

2か年に及ぶ事業が終了を迎える。研究成果を踏まえて作成した、農業就労に向けた「学習支援プログラム」の発刊を終え、協力委員所属の各校をはじめ、県内全特別支援学校に提供することで、実践的で児童生徒が知識・技術の習得に主体的に取り組める農業学習の充実を促す。また、農業関連企業・法人にも同プログラムを介して情報を提供し、特別支援学校と企業等との相互理解に資するものとする。当センターとしては引き続き、その後の各校での活用や内容の随時更新、農業関連企業・法人との新たな連携に関わったり、新たに研修会を企画したりするなどし、生徒の企業等での現場実習の機会拡大と就労人数の増加を支援していく。

障害のある人が就労後も自信ややりがいをもって農業分野で活躍し続ける社会の実現という、「農福連携推進ビジョン」の取組が強く求められている。今後、特別支援学校生徒が希望に応じて農業分野に就労し、地域社会と関わりながら活躍するという一層の社会参画を促す。本プログラムの有効活用が、地域共生社会の実現、ひいては埼玉県農福連携に貢献することを願い、最終報告とする。



末筆ではございますが、本事業にご協力いただいた調査研究協力委員の皆様、ご多用の中、委員会へのご出席に感謝いたします。また、アンケート調査にご協力いただいた特別支援学校教職員様、農業関連企業・法人の担当者様、花壇作成による作業プログラムの内容向上に助言をいただいた各校担当者様、現地調査や情報収集を受け入れてくださった企業の皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

令和3・4年度調査研究「特別支援学校生徒に対する農業分野への就労支援」
事務局 総合教育センター江南支所 農業教育・環境教育推進担当



Ⅶ 参考

1 調査研究協力委員

(1) 令和3年度

	学 校 名	職 名	氏 名
1	川越特別支援学校たかしな分校	教諭	山田 源
2	羽生ふじ高等学園	同	大塚 俊太
3	深谷はばたき特別支援学校	同	島津 隆
4	入間わかくさ高等特別支援学校	同	武井 真人
	担 当 名	職 名	氏 名
5	総合教育センター特別支援教育担当	指導主事兼所員	堀口 哲
6	同	同	吉田 勝美
7	同	同	山崎 慎也

(2) 令和4年度

	企 業 名	職 名	氏 名
1	埼玉福興株式会社	代表取締役	新井 利昌
	学 校 名	職 名	氏 名
2	羽生ふじ高等学園	教諭	大塚 俊太
3	さいたま桜高等学園	同	小林 裕史
4	深谷はばたき特別支援学校	同	島津 隆
5	入間わかくさ高等特別支援学校	同	武井 真人
	担 当 名	職 名	氏 名
6	総合教育センター特別支援教育担当	指導主事兼所員	吉田 勝美
7	同	同	井上 浩一
8	同	同	堀口 剛

2 事務局 総合教育センター江南支所 農業教育・環境教育推進担当

担 当 年 度	職 名	担当者名
(令和3・4年度)	主任指導主事	島田 泉
(令和3・4年度)	指導主事兼所員	山本 裕夫
(令和4年度)	同	山崎 友昭
(令和3・4年度)	同	橋本 博行
(令和4年度)	同	谷 貴美
(令和4年度)	同	武井 一郎
(令和3年度)	同	関根 努
(令和3年度)	同	加藤 澄枝
(令和3年度)	同	中村 直央
(令和3年度)	同	若山 武範

3 資料

- [1] 2021年 埼玉の食料・農林業・農山村（埼玉県）
https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/206317/2021a11_2.pdf
- [2] 令和2年度 食料・農業・農村白書 食料・農業・農村の動向
第204回国会（常会）提出 全体版
https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/r2/pdf/zentaiban.pdf
- [3] 2020年農林業センサス 結果の概要 確定値（埼玉県）
https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198557/kekkgaiyou_kakutei.pdf
- [4] 農福連携の推進（農林水産省）
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/kourei.html#調査・研究>
- [5] 農福連携等推進会議（内閣官房）
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/nousui/noufuku_suishin_kaigi/index.html
- [6] 農福連携等推進ビジョン（農福連携等推進会議）
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/attach/pdf/kourei-40.pdf>
- [7] 農福連携等応援コンソーシアム総会資料（令和4年8月2日）（文部科学省）
https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/noufuku/attach/pdf/conso_soukai-28.pdf
- [8] 福祉分野に農作業を ver.8（法務省・文部科学省・農林水産省・厚生労働省）
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/attach/pdf/kourei-95.pdf>
- [9] 農福連携スタートアップマニュアル（農林水産省・厚生労働省）
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/attach/pdf/kourei-97.pdf>
- [10] 農業分野における障害者就労マニュアル（農村工学研究所）
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/attach/pdf/kourei-42.pdf>
- [11] 農業分野における障害者就労の手引き（農村工学研究所）
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/attach/pdf/kourei-24.pdf>
- [12] 障害者雇用のための農作業マニュアル（埼玉県・農業支援課）
<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/20051/nosagyomanyual.pdf>
- [13] SDGsの目標とターゲット（農林水産省）
https://www.maff.go.jp/j/shokusan/sdgs/sdgs_target.html
- [14] 農福連携事例集（ver.3）令和4年2月（農林水産省）
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/attach/pdf/kourei-89.pdf>
- [15] ポータルサイト「ノウフクWEB」（日本基金）
<https://noufuku.jp>
- [16] ポータルサイト「ノウフクWEB」（同）NEWS ノウフクからのお知らせ
<https://noufuku.jp/news/info-20221026>
- [17] 埼玉福興株式会社ホームページ
<http://saitamafukko.com/>



埼玉県立総合教育センター-江南支所

<https://ecsweb.center.spec.ed.jp/I001>



研究成果物の
「学習支援プログラム」は
こちらからご覧になれます



埼玉県立総合教育センター-江南支所は
[農福連携等応援コンソーシアム](#)の賛助会員です

埼玉県立総合教育センター 研究報告書 第429号
令和3・4年度 調査研究 最終報告書
「特別支援学校生徒に対する農業分野への就労支援」

埼玉県立総合教育センター-江南支所 農業教育・環境教育推進担当



〒360-0113 埼玉県熊谷市御正新田 1355-1

TEL 048-536-1586 FAX 048-536-1710



特別支援学校生徒に対する「農業分野への就労支援」

- 学校向けアンケート調査 -

※当アンケート調査における「農業分野」とは、以下のいずれかを指すこととします

露地野菜・施設野菜・稲・麦・果樹・露地花き・施設花き等の植物生産

搾乳牛・肥育牛・豚・採卵鶏・ブロイラー等の経済動物飼養

参考：農林水産省 農業センサス 用語の解説 【農林業経営体調査】

(質問1) 学校名 (記入例：〇〇特別支援学校)

(質問2) 職名 (記入例：教諭)

(質問3) お名前 (記入例：江南 太郎)

(質問4) メールアドレス

お名前とメールアドレスは回答内容について詳細をお聞きする場合に使用します。

◆ 共通質問

(質問5) 「農福連携」について知っていますか

知っている

聞いたことはある

知らない

(質問6) 農業分野への生徒の就労(農福連携)に関して、御校での取組状況について
どのようにお考えですか

積極的に取り組んでいる

取り組んでいる

あまり取り組んでいない

取り組んでいない

(質問7) 農業分野への就労(農福連携)を推進することで生徒にとって「利点」と考
えるものを選んでください(複数回答可)

就労場所の確保につながる

一般就労への移行につながる

特性を考慮した作業の設計が
可能である

身体的・精神的に良い影響があ
る

特性(性格)に合っている

自信や生きがいの創出につな
がる

社会コミュニティへの参加機会が
得られ、社会性の向上につながる

収入が安定する

特にない

その他 ()

(質問8) 農業分野への就労(農福連携)を推進することで生徒にとって「不利な点」と考えるものを選んでください(複数回答可)

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 作業内容が身体的な負担が大きい | <input type="checkbox"/> 作業内容が精神的な負担が大きい |
| <input type="checkbox"/> 受入先の支援体制が整っていない | <input type="checkbox"/> 時期によって勤務時間が異なる |
| <input type="checkbox"/> 機械作業などが危険である | <input type="checkbox"/> 就労地までの交通手段が乏しく通勤が難しい |
| <input type="checkbox"/> 収入が少ない | <input type="checkbox"/> 特にない |
| <input type="checkbox"/> その他() | |

(質問9) 農業分野への生徒の就労(農福連携)の今後について、どう考えますか

- | | |
|---------------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 積極的に推進すべき | <input type="checkbox"/> 推進すべき |
| <input type="checkbox"/> あまり推進する必要はない | <input type="checkbox"/> 推進する必要はない |
| <input type="checkbox"/> その他() | |

(質問10) 農業分野への生徒の就労(農福連携)を推進するには、学校は今後どのようなことをする必要があると考えますか(上位より3つまでで選んでください)

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 就労先(農業分野)の情報収集 | <input type="checkbox"/> 就労先企業等との連携強化(産業現場実習の充実等) |
| <input type="checkbox"/> 行政との連携強化(支援の依頼等) | <input type="checkbox"/> 保護者との連携強化(生徒の特性の理解等) |
| <input type="checkbox"/> 地域の方との連携強化(特別非常勤講師の充実等) | <input type="checkbox"/> 外部関係機関等との連携強化 |
| <input type="checkbox"/> 農業機械・管理機械を使った農業実習の充実 | <input type="checkbox"/> 生徒の就労につながるための専門的な指導 |
| <input type="checkbox"/> 就労後のサポート体制の充実 | <input type="checkbox"/> 教職員研修の充実 |
| <input type="checkbox"/> 農場の確保(拡大) | <input type="checkbox"/> 授業時数の確保 |
| <input type="checkbox"/> 予算の確保 | <input type="checkbox"/> 学習成果物(農作物)の販路の確保 |
| <input type="checkbox"/> 特にない | <input type="checkbox"/> その他() |

(質問) 総合教育センター江南支所では、次のような事業を行っています。

- ・ 各種教職員研修(年次等)
- ・ 農業教育に係る県立学校生徒対象の実験・実習
- ・ 特別支援学校生徒対象の実験・実習
(対象者が来所して行うものと、出張講座とがあります)
- ・ 適応指導教室に通う児童・生徒対象の「農と緑のふれあいスクール」
(対象者が来所して行うものと、出張講座とがあります)
- ・ 小学生対象の「食と農のチャレンジ教室」
- ・ 学校教職員対象の「活かすぞ!学校ファーム研修会」
- ・ 学校教職員対象の「学校花いっぱい活動研修会」
- ・ 高校生対象の「農業・環境・自然体験学習」

- ① これらの事業内容について知っていましたか
- ② 「農業分野への就労支援」について、当支所が出来ることがあればお聞かせください（自由記述）

◆ 学校長への質問

（質問 2）御校には、農業分野に係る内容の作業学習や学校ファーム等がありますか。

- ある ない

（質問 6）農業分野への生徒の就労（農福連携）の今後について、どう考えますか

- 積極的に推進すべき 推進すべき
 あまり推進する必要はない 推進する必要はない
 その他（ ）

（質問 7）前問で「あまり推進する必要はない」「推進する必要はない」とお答えの方にお聞きします。そう考える理由を教えてください

（質問 9）以下の項目についてお考えがあればお聞かせください（自由記述）

- ① 農業に関する作業学習等について
- ② 農業分野への生徒の就労について
- ③ 農業に関する職業教育について

◆ 高等部進路指導主事への質問

（質問 11）農業分野への就労を希望する生徒はいますか。担当している期間でお答えください

- 毎年度いる ときどきいる
 ほとんどいない 全くいない

⇒ 「全くいない」とお答えの方は（質問 14）にお進みください

（質問 12）生徒はどのような理由で農業分野への就労を希望していますか（複数回答可）

- 身体的に安定するから 精神的に安定するから
 安定した収入が得られるから 自分の特性（性格）に合っているから
 保護者が希望するから その他（ ）

（質問 13）生徒はどのような農業分野への就労を希望していますか（複数回答可）

- 野菜栽培等に関する分野 稲・麦等の作物に関する分野
 果樹栽培に関する分野 園芸（花栽培）に関する分野
 畜産・飼育に関する分野 その他（ ）

(質問 14) 保護者から農業分野への就職に関する問い合わせはありますか。担当している期間でお答えください。

- ある あまりない
 ない

⇒ 「ない」とお答えの方は(質問 17)にお進みください

(質問 15) 保護者からの問い合わせはどのような内容ですか(複数回答可)

- 学校からの就職の実績について 産業現場実習について
 仕事の内容について 就労場所について
 企業等のサポート体制について 企業等の障害者就労状況について
 生徒の適性について その他()

(質問 16) 保護者はどのような理由で生徒の農業分野への就労に関心を寄せていますか(複数回答可)

- 身体的に安定するから 精神的に安定するから
 安定した収入が得られるから 生徒の特性(性格)に合っているから
 本人が希望するから その他()

(質問 17) 農業分野での産業現場実習の実績は、過去3年間で延べ何か所ありますか

- 5か所以上 4～3か所
 2～1か所 ない

⇒ 「ない」とお答えの方は(質問 20)にお進みください

(質問 18) 産業現場実習を経て、農業分野に就職した生徒は過去3年間でどのくらいいますか

- 5名以上 4～3名
 2～1名 いない

(質問 19) 前問に「いない」と答えた方にお聞きします。就労にいたらなかった理由は何ですか

- 生徒が希望しなかったから 希望したが採用されなかったから
 その他()

⇒ (質問 21)にお進みください

(質問 20) 農業分野での産業現場実習の実績がない理由は何ですか(複数回答可)

- 企業等が特別支援学校生徒の実態について知らないから 企業等が障害の特性を理解していないから
 企業等が障害のある生徒には作業が難しいと考えているから 企業等が障害のある生徒の採用を検討していないから
 実習先となる企業等が少ない 実習先となる企業等を探す方

- から
 生徒・保護者が希望しないから
- 法がわからないから
 その他（ ）

(質問 21) 産業現場実習の実習先の新規開拓はどのように行っていますか (複数回答可)

- 直接企業に問い合わせる
 ハローワークを経由する
 保護者や地域の支援者を経由する
 特に行っていない
 その他（ ）

(質問 22) どうすれば農業分野での産業現場実習受入先は増えると考えますか (上位より3つまで選んでください)

- 企業等の担当者に特別支援学校について理解してもらう
 企業等の担当者に生徒の作業学習の様子を見てもらう
 企業等の担当者に障害の特性について理解してもらう
 授業で農業機械の操作実習を増やすなど技術を高める
 就労支援センターなどの行政との連携を強化する
 実習後に企業等からの要望を聴取する
 保護者等からの情報提供を生かす
 その他（ ）

(質問 23) 農業分野での産業現場実習は今後どうなると考えますか

- 増える
 変わらない
 減る
 分からない

(質問 23-2) 前問でその選択肢を選んだ理由を教えてください

(質問 24) 農業分野での産業現場実習に臨む際の指導は他の産業と比較してどう考えますか

- 農業の知識が乏しく難しい
 実習の実績が乏しく難しい
 保護者の理解や協力を得るのが難しい
 実習先の企業等の要望に応えるのが難しい
 行政等の支援が必要で難しい
 身近であり、指導しやすい
 他の産業と特に変わらない
 その他（ ）

(質問 25) 農業分野への生徒の就労 (農福連携) はどんな形態が良いと考えますか

- 農業経営体 (企業等) による障害者雇用
 農業生産者による直接雇用
 農業生産者からの社会福祉法人等への作業委託
 社会福祉法人等による農業生産
 特にない
 その他（ ）

(質問 26) 農業分野への生徒の就労(農福連携)を推進するには、どのような機関との連携が必要だと考えますか(複数回答可)

- | | |
|-------------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 農業経営体(企業等) | <input type="checkbox"/> 農業生産者(農家等) |
| <input type="checkbox"/> J A | <input type="checkbox"/> 障害者就労支援センター |
| <input type="checkbox"/> 障害者就労施設 | <input type="checkbox"/> ハローワーク |
| <input type="checkbox"/> 市役所等 | <input type="checkbox"/> 特になし |
| <input type="checkbox"/> その他() | |

(質問 27) 以下の質問は自由記述でお答えください

- ① 農業分野への生徒の就労を推進する場合に企業等の担当者に聞きたいことがあればお聞かせください
- ② 農業分野への生徒の就労を推進場合に必要な情報があればお聞かせください
- ③ 農業分野への生徒の就労について、お考えがあればお聞かせください

◆作業学習・学校ファーム担当者への質問

(質問 11) 高等部の作業学習等に「農耕班」等の設置または農業分野の学習内容はありますか

- | | |
|------------------------------------|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 「農耕班」等がある | <input type="checkbox"/> 農業分野の学習内容がある |
| <input type="checkbox"/> 特に設置していない | |

⇒ 「特に設置していない」とお答えの方は(質問 16)にお進みください

(質問 12) 農業に関する作業学習等では、生徒はどのような分野の学習をしていますか(複数回答可)

- | | |
|--------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 野菜栽培等に関する分野 | <input type="checkbox"/> 稲・麦等の作物に関する分野 |
| <input type="checkbox"/> 果樹栽培に関する分野 | <input type="checkbox"/> 園芸(花栽培)に関する分野 |
| <input type="checkbox"/> 畜産・飼育に関する分野 | <input type="checkbox"/> その他() |

(質問 13) 農業に関する作業学習等に取り組んでいる理由は何ですか(上位より3つまでで選んでください)

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 忍耐力や継続力が身につくから | <input type="checkbox"/> 農作業を通じて働くことの意義を学習できるから |
| <input type="checkbox"/> 農業分野への就労に有利だから | <input type="checkbox"/> 生徒の特性に合っているから |
| <input type="checkbox"/> 生徒からの要望が大きいから | <input type="checkbox"/> 農業の技術が身につくから |
| <input type="checkbox"/> 農場を有効に活用するため | <input type="checkbox"/> その他() |

(質問 14) 農業に関する作業学習等を行う際に工夫していることはどんなことですか
(上位より3つまでで選んでください)

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 生徒の特性に応じた作業の効率化(作業の細分化等) | <input type="checkbox"/> 就労を意識した年間指導計画の作成 |
| <input type="checkbox"/> 複数学年(縦割り)での実習形態 | <input type="checkbox"/> 就労に向けた保護者の意向 |
| <input type="checkbox"/> 外部専門機関等との連携 | <input type="checkbox"/> 特別非常勤講師等との連携 |
| <input type="checkbox"/> 生徒の安全確保 | <input type="checkbox"/> 生徒の達成感(収穫など) |
| <input type="checkbox"/> 生産高 | <input type="checkbox"/> 特にない |
| <input type="checkbox"/> その他() | |

(質問 15) 前問で、具体的な工夫の内容があれば教えてください

(質問 16) 農業に関する作業学習等を行っていない理由は何ですか(複数回答可)

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 農業に関する技術や知識がない(指導者不足) | <input type="checkbox"/> 農業に関する学習プログラムがない |
| <input type="checkbox"/> 農場が狭い・環境が良くない | <input type="checkbox"/> 作業のための機械が少ない、または無い |
| <input type="checkbox"/> 予算の割り当てが無い | <input type="checkbox"/> 生徒の安全確保が難しい |
| <input type="checkbox"/> 生徒が興味・関心を示さない | <input type="checkbox"/> その他() |

(質問 17) 農業に関する作業学習の必要性を感じますか

- | | |
|----------------------------------|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 大いに感じる | <input type="checkbox"/> 感じる |
| <input type="checkbox"/> あまり感じない | <input type="checkbox"/> 感じない |

⇒ 「大いに感じる」「感じる」とお答えの方は(質問 19)にお進みください

(質問 18) 農業に関する作業学習の必要性を感じない理由は何ですか(複数回答可)

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 作業内容が多岐にわたり生徒には不向きだから | <input type="checkbox"/> 生徒が興味関心を示さないから |
| <input type="checkbox"/> 安全管理など指導が困難だから | <input type="checkbox"/> 農業分野への就労につながらないから |
| <input type="checkbox"/> その他() | |

(質問 19) 今後、農業に関する作業学習等をより一層充実させるために必要と考えるものを選んでください(上位より3つまでで選んでください)

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 年間指導計画の見直し | <input type="checkbox"/> 就労先企業等との連携(産業現場実習の充実等) |
| <input type="checkbox"/> 行政との連携(支援の依頼等) | <input type="checkbox"/> 保護者との連携(生徒の特性の理解等) |
| <input type="checkbox"/> 外部関係機関等との連携 | <input type="checkbox"/> 地域の方(特別非常勤講師等)との連携 |

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 農業機械・管理機械を使った農業実習 | <input type="checkbox"/> 生徒の就労につながるための専門的な指導 |
| <input type="checkbox"/> 教職員研修の充実 | <input type="checkbox"/> 農場の確保（拡大） |
| <input type="checkbox"/> 授業時数の確保 | <input type="checkbox"/> 予算の確保 |
| <input type="checkbox"/> 学習成果物（農作物）の販路の確保 | <input type="checkbox"/> 特にない |
| <input type="checkbox"/> その他（ ） | |

（質問 20）農業に関する作業学習等の授業内でもっと行ったほうが農業分野への就労に有利になると考えるものはありますか（複数回答可）

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> トラクタなどの農業機械の運転操作実習 | <input type="checkbox"/> 刈り払い機など管理作業機の実習 |
| <input type="checkbox"/> 鉢上げ（ポットへの移植）や収穫などの栽培実習 | <input type="checkbox"/> 灌水（みずやり）や除草（草取り）などの管理実習 |
| <input type="checkbox"/> 特にない | <input type="checkbox"/> その他（ ） |

（質問 21）農業に関する作業学習等において、就労の際に有利になると考えられる農業技術の習得を指導していますか

- | | |
|-----------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 積極的にしている | <input type="checkbox"/> している |
| <input type="checkbox"/> あまりしていない | <input type="checkbox"/> していない |

⇒ 「していない」とお答えの方は（質問 24）にお進みください

（質問 22）農業に関する作業学習等において、どのような農業技術の習得を指導していますか（複数回答可）

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> トラクタなどの農業機械の運転操作実習 | <input type="checkbox"/> 刈り払い機など管理作業機の実習 |
| <input type="checkbox"/> 鉢上げ（ポットへの移植）や収穫などの栽培実習 | <input type="checkbox"/> 灌水（みずやり）や除草（草取り）などの管理実習 |
| <input type="checkbox"/> その他（ ） | |

（質問 23）農業技術の指導のなかで、生徒の良い変容を促す工夫があれば教えてください（自由記述）

（質問 24）以下の質問は自由記述でお答えください

- ① 農業に関する作業学習等を充実させる場合に必要な情報や教材はありますか
- ② 農業分野への生徒の就労について、お考えがあればお聞かせください

◆進路指導・作業学習及び学校ファーム担当以外への質問

(質問 11) 農業に関する作業学習の必要性を感じますか

- | | |
|----------------------------------|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 大いに感じる | <input type="checkbox"/> 感じる |
| <input type="checkbox"/> あまり感じない | <input type="checkbox"/> 感じない |

⇒ 「大いに感じる」「感じる」とお答えの方は(質問 13)にお進みください

(質問 12) 農業に関する作業学習の必要性を感じない理由は何ですか(複数回答可)

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 作業内容が多岐にわたり生徒には不向きだから | <input type="checkbox"/> 生徒が興味関心を示さないから |
| <input type="checkbox"/> 安全管理など指導が困難だから | <input type="checkbox"/> 農業分野への就労実績がないから |
| <input type="checkbox"/> その他() | |

(質問 13) 今後、農業に関する作業学習等をより一層充実させるために必要と考えるものを選んでください(上位より3つまでで選んでください)

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 年間指導計画の見直し | <input type="checkbox"/> 農業指導に関する教職員研修の充実 |
| <input type="checkbox"/> 農場の確保(拡大) | <input type="checkbox"/> 農業機械・管理機械を使用した実習 |
| <input type="checkbox"/> 授業時数の確保 | <input type="checkbox"/> 予算の確保 |
| <input type="checkbox"/> 学習成果物の販路の確保 | <input type="checkbox"/> 外部関係機関等との連携 |
| <input type="checkbox"/> 地域の方(特別非常勤講師等)との連携 | <input type="checkbox"/> 特にない |
| <input type="checkbox"/> その他() | |

(質問 14) 農業に関する技術について、ご自身が習得したいものはありますか

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> トラクタなどの農業機械の運転操作技術 | <input type="checkbox"/> 刈り払い機などの管理作業機の操作実習 |
| <input type="checkbox"/> 鉢上げ(ポットへの移植)や収穫などの栽培技術 | <input type="checkbox"/> 灌水(水やり)や除草(草取り)などの管理技術 |
| <input type="checkbox"/> その他 | |

(質問 15) 以下の項目についてお考えがあればお聞かせください(自由記述)

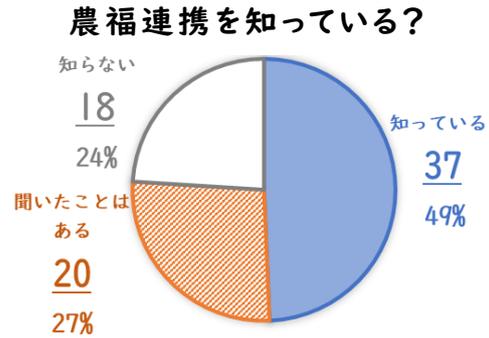
- ① 農業に関する作業学習等について
- ② 農業分野への生徒の就労にについて

特別支援学校教職員に対するアンケート調査結果

◆全職員への共通質問

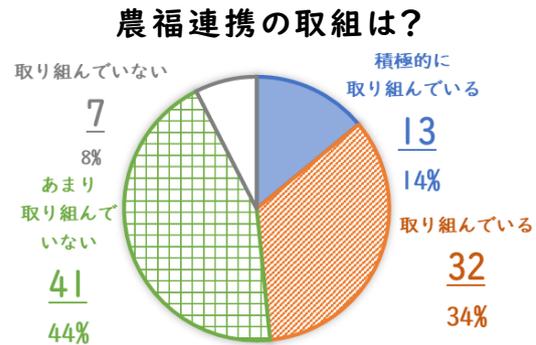
(質問5)

農福連携について知っていますか
(単一回答)



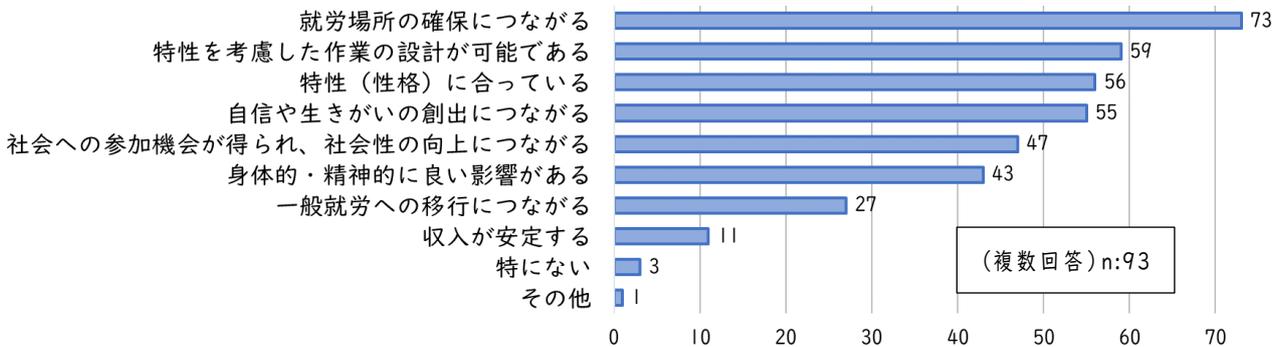
(質問6)

農業分野への生徒の就労（農福連携）に関して、学校での取組状況についてどのようにお考えですか
(単一回答)



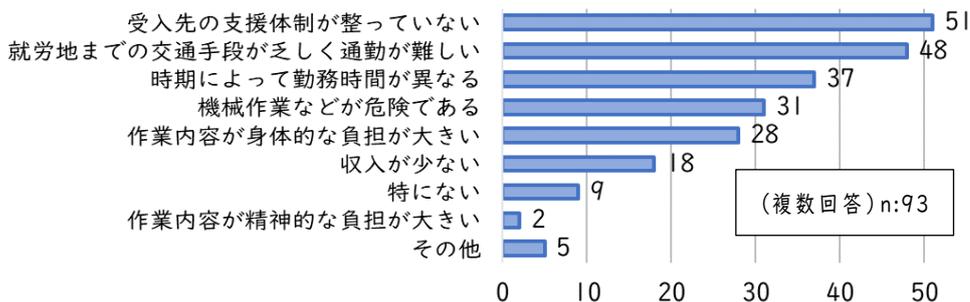
(質問7) 農業分野への就労（農福連携）を推進することで生徒にとって「利点」と考えるものを選んでください

農福連携推進することでの生徒にとっての利点は?



(質問8) 農業分野への就労（農福連携）を推進することでの生徒にとって「不利な点」と考えるものを選んでください

農福連携を推進することでの生徒にとって不利な点は?



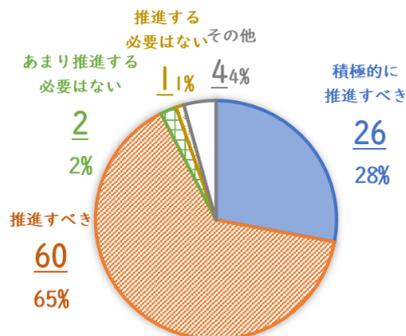
(質問 9)

農業分野への生徒の就労（農福連携）

の今後について、どう考えますか

(単一回答)

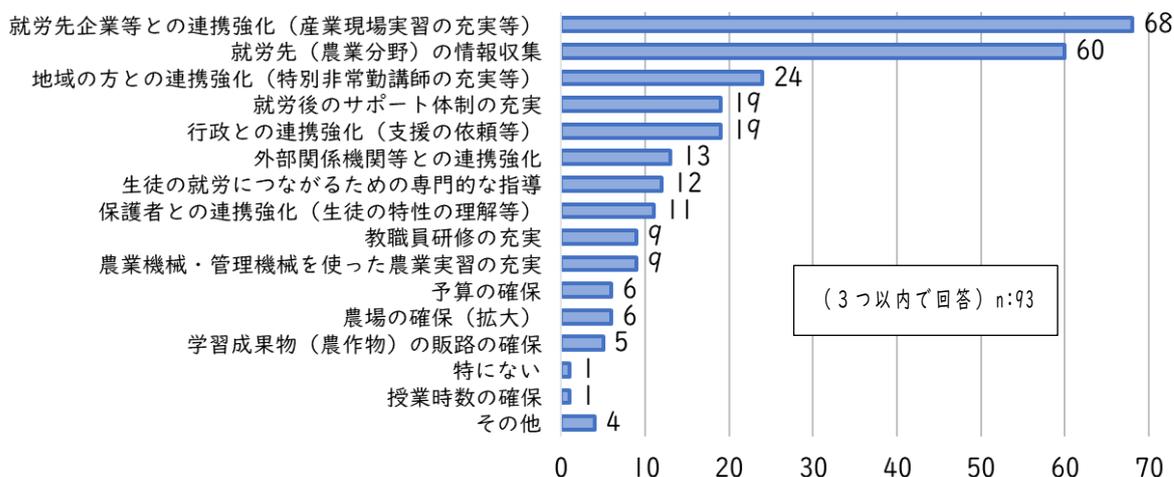
農福連携の後は？



(質問 10)

農業分野への生徒の就労（農福連携）を推進するには、学校は今後どのようなことをする必要があると考えますか

農福連携のために学校がすべきことは？



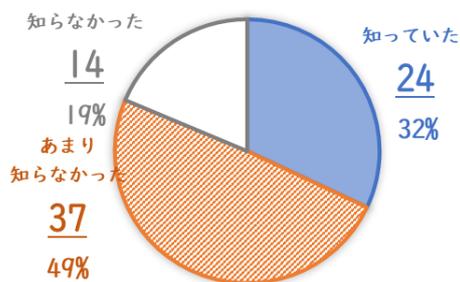
(質問)

総合教育センター江南支所では、次のような事業を行っています（※略）

江南支所の事業を知っていた？

- ① これらの事業内容について知っていましたか

(単一回答)



- ② 「農業分野への就労支援」について、当支所が出来ることがあればお聞かせください

● 学校長

生徒が江南支所で実習できる機会をさらに拡充してもらいたい。

農業分野におけるハイテクは以前と比べ物にならないくらい進んでいると思う

が、一般の教職員や保護者の知識はそこまで進んでいない。今後、農業分野に就

労を考えるにあたっては、現状の農業分野がどのような状況にあるのかを知ることは、大変重要である。コロナ禍で研修を行うのは困難と思うが、ある程度収束した時には、是非研修をお願いしたい。特に分校は、農作業を学習の中心に置いているので、最新の情報は重要だと考える。

生徒の職業教育向けの図書・テキスト、資料の作成・提供及び職員研修。

特別支援教育と農業がもっと連携できるとよい。

資格取得に向けた講習。

やろうと思えば何でもできるが、農業専門でない教員に対する研修・指導助言。

県障害者雇用総合サポートセンター、地域の障害者就労支援センター、農協関係者、学校の進路担当者や農業関連作業学習の担当者による「生徒の農業分野への就労支援」研修と情報交換を実施し、現場実習等へつなげられないだろうか。

農福連携の実情と課題、实例を広く伝えていただきたい。今後はAIの活用で農作業の形態が変化するとも聞いている。生徒の就労の可能性が生まれてくるかもしれないので、最新の情報を知りたい。

●進路指導担当者

農業分野をはじめ、様々な分野の現場実習や説明会等の情報。

学校の作業学習で取り組みやすい作物や活動の紹介。農業分野の就労を実際に行っている企業等の見学機会の提供など。教員、生徒、保護者の農業についての視野を広げるような内容を希望。

時代の変化を読み取れる情報が励みになる。

学校周辺での農家への雇用促進情報が欲しい。

農業分野での就労希望があるときの相談や情報提供。

短期でもよいので就労訓練の実施、農業法人等との連携と情報発信。

就労に関する情報をいただけたら、情報提供を生徒保護者にしやすくなる。

学校へ産業現場実習や就労に向けた情報発信や地域の障害者雇用の理解の推進。

産業現場実習の江南支所での受け入れ。

近隣で農業分野での産業現場実習や障害者雇用を考えているところがあったら、紹介してほしい。見学や担当者との面談もしてみたい。

●農業学習・作業学習担当者

就労先情報の積極的な発信。

障害者雇用に興味のある農園関係者に対する生徒の実態や配慮点の説明等。

指導する教員側の研修体制も整えていくことでより良くなっていくと考える（農業指導に係る長期研修の受け入れ）

就労につながる農業技術のスキルアップ支援（働く意欲向上にもつながる）

農業分野の就労情報と農業の専門性（外部講師の活用など）がほしい。また本校では、畑に十分な広さがなく、道具も足りていないのが現状。

冊子、ホームページ、動画サイトなどで情報提供をしていただけると教材研究や必要な部分だけでも生徒にも見せられる。

学校で畜産分野の授業は難しいので、畜産に関する体験ができれば。

実習の受け入れと移行支援の導入。

●一般教職員

農福連携に理解のある企業での現場実習を仲介していただけるとありがたい。

特別支援学校には必ずしも農業の教員免許状取得者がいるわけではない。困ったときに気軽に教えていただけるとありがたい。

農業の実習指導に毎月来ていただきたい。

就労先の情報提供やアフターケア。

県内各地の農家に出向いて、実際に障害者を雇っているか、雇ってみたいかなどの、実態やニーズを聞き取ってほしい。

県や自治体への働きかけ、実際の生徒の様子を見てほしい。本校の進路指導部や農園芸班だけではどうにもできない部分があるので、県や自治体を巻き込んで理解、支援を行ってほしい。

現在該当する業務を担当していないので貢献できることがないが、農業分野への就労は可能性があると思うので、進めて行ってほしい。

HP等を利用して宣伝を行っても、高齢の農家さん達が目にして興味を示す場が少ない。各市町村や直売所に教育委員会としてもう少しアピールできれば、目を向けてもらえ、体験等を実施出来ればハードルが低くなる。

自分が初任研でお世話になった農業体験では、農業の楽しさ、教材としての素晴らしさを体感することができました。今後も初任者が江南支所でそういった体験ができればと思います。

出張講座を依頼させて頂きました。生徒達はとても意欲的に参加することができたので、ぜひ今後も宜しく願います。

農業関係者に障害者就労についての理解啓発を進めてほしい。

分校等はよりプロに近いことができるので専門的な知識や年間を通して土地を活用できるような生産サイクル等の指導がほしい。

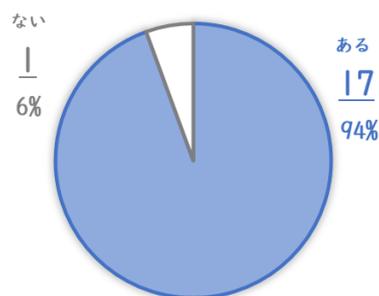
学校での農業は、従来のやりかたで行っているのが現状。暑い、寒い、重い、たいへん…だけではない農業について教えていただく機会があるとよい。

◆ 学校長への質問

(質問 2)

御校には、農業分野に係る内容の作業学習や学校ファーム等がありますか
(単一回答)

農業分野の学習内容は？



(質問 9) 以下の項目についてお考えがあればお聞かせください

● 農業に関する作業学習等について

特別支援学校では昔から各校で取り組まれている作業分野で、各校ともに一定のノウハウや経験知が蓄積されている。

作業種として古いという意見もあるが、そうは思わない。良い作業種だと思う。

以前よりも農業分野での就労の可能性が大きくなってきていることや、農業分野で求められる知識やスキルの専門性が高くなってきていることを考慮すると、作業学習等に専門家を講師として招くなどの必要性を感じる。

障害特性の多様化や農業の ICT 化が進む中で、田畑等の現場仕事だけでなく、生産物のデータ管理（入力作業等）の指導が必要と考える。

学校の作業学習の取組では、規模が小さく福祉法人等の農業経営との差があるため、就労後の環境を考えて指導面で工夫していくことが必要である。

体力や協調性、作業の知識を身につけることが必要である。

豊かな心の育成に効果的である。

校内農場の狭さや雨天時の対応などに課題がある。水耕栽培等の屋内環境の整備が必要である。

年間を通した活動内容の充実。就労に直結する指導内容の工夫。

教職員研修の一層の充実が必要である。

作業学習でつけた力が就労先で活用されるかどうかが課題と考える。

生徒の実態に合った自然環境と作業内容があり、体験は積極的にさせたい。

● 農業分野への生徒の就労について

今後積極的に拡充していくべき。ただ、農業には繁忙期と閑散期がある。年間を通して安定的な雇用が保障されるのかが不安なところである。

生徒の特性や興味関心等により、農業分野での就労が望ましいケースもあるので、今後は他の就労先同様に推進していくべき。

将来性はどうか、農業に係る規制が緩和されるか、農業自体が大変な仕事、そこへの合理的配慮はなされるのかなど疑問がある。

生徒や保護者の農業就労への理解が必要ではないか。

希望する生徒はいるが、企業としての就労先が少ない（個人経営が多い）

知的障害者の雇用確保と食料自給率の向上のためにも必要である。

機会があれば積極的に推進していきたい。

就労できる生徒への積極的な指導支援が必要である。

農業分野の会社運営が増える中で、生徒の就労に繋げるための企業開拓・連携等が必要。

地域の農業関係機関や農業関係者とのつながりが必要。そのために行政のバックアップ、例えば農業関係機関・団体等に実習受け入れを促進する通知等を発出し、受入先一覧等の情報を進路指導関係者に提供してほしい。

生徒の居住地から通勤できる範囲での就労場所の確保（情報の共有）

就労先がそもそもない。あっても低収入で話にならない。

生徒の進路選択の面からも、後継者不足に悩む農業への対策という面からも進めるべき。

この分野の企業との連携は課題だと感じている。学校としても開拓していきたいが、周囲にそういった就労先が見当たらない。

●農業に関する職業教育について

具体的な作業技術は就労先で学ぶことができるので、学校段階であまり専門的な内容を盛り込み過ぎなくてもよい。それよりも働き続けることへの意欲や仕事に臨む基本的な姿勢、他者との協力、職業人としてのマナー等を今まで以上にしっかり身につけさせる必要がある。

農業分野への就労を目指す生徒には、積極的に産業現場実習等を勧めている。

農業という職業の意義や社会的な役割、生産から流通、消費までを学べるような職業教育が必要である。

指導者の育成や地域との連携が必要である。

栽培、収穫だけでなく農業用の機械（耕耘機）をはじめとした農業土木（コンボ等）に係る指導や免許取得が必要である。また、野菜等の収穫物に関する知識（生育方法や調理に関係する分野）の習得も必要と考える。

農地や指導者の専門性の確保、農業経営に関する実務教育の実践。

必要であり、積極的に取り入れたい（本校には畑がない）

適性のある生徒には有効である。

農業に限らず就労に必要なビジネスマナーやパソコン等によるデータの入力等、障害特性を生かした職業教育の工夫が必要と考える。

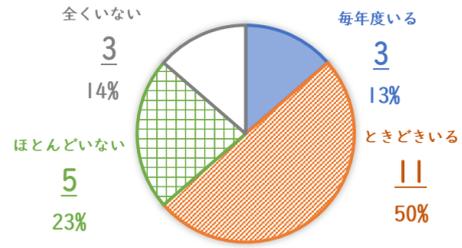
職業観や働くことの大切さ等が農作業を通して身に付けられると良い。

就労するための姿勢や資質を身につけるという点で、植物相手なので「責任をもって作業しないと枯れてしまう」というのは教材として良いと思う。

(質問 11)

農業分野への就労を希望する生徒はいますか。担当している期間でお答えください (単一回答)
 ⇒「全くいない」とお答えの方は(質問 14)にお進みください

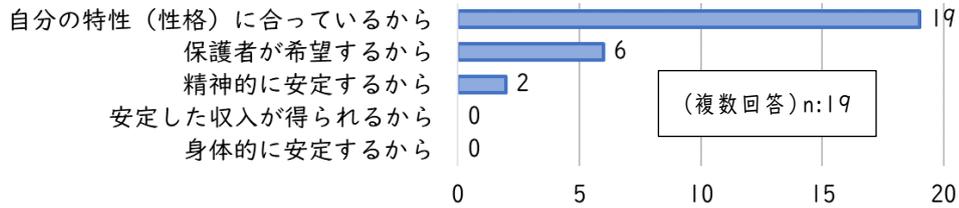
農業分野への就労を希望する生徒は?



(質問 12)

生徒はどのような理由で農業分野への就労を希望していますか

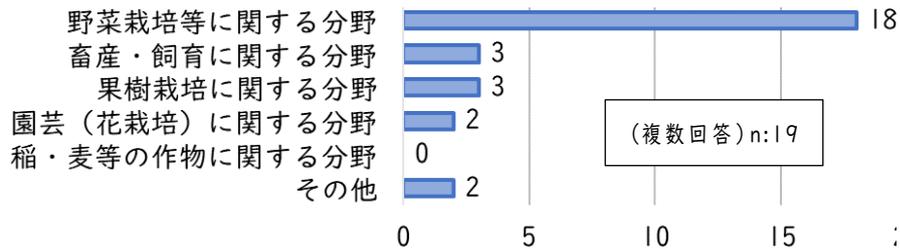
生徒が農業分野への就労を希望する理由は?



(質問 13)

生徒はどのような農業分野への就労を希望していますか

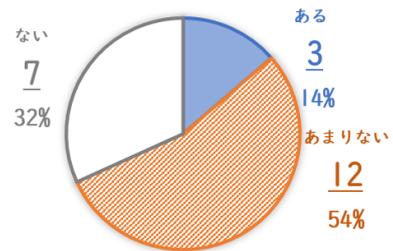
生徒が就労を希望する農業の分野は?



(質問 14)

保護者から農業分野への就職に関する問い合わせはありますか。担当している期間でお答えください。(単一回答)
 ⇒「ない」とお答えの方は(質問 17)にお進みください

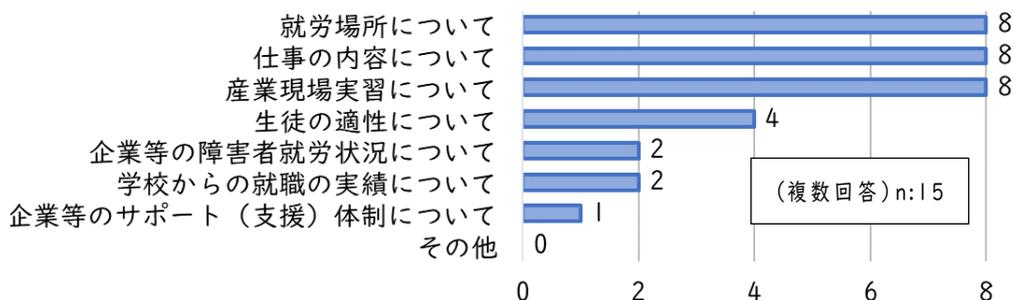
保護者からの問い合わせは?



(質問 15)

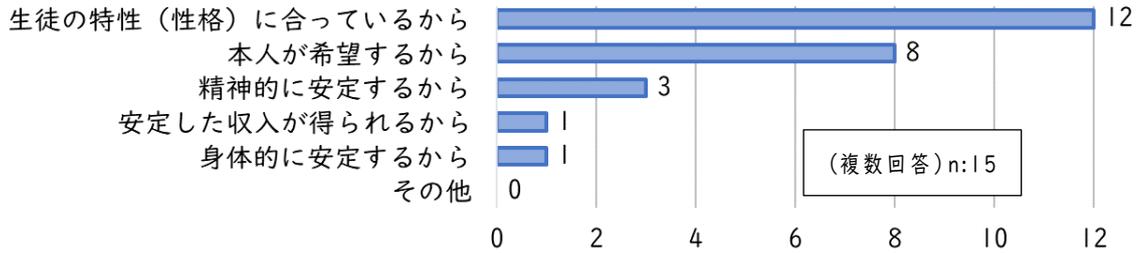
保護者からの問い合わせはどのような内容ですか

保護者からの問い合わせ内容は?



(質問 16) 保護者はどんな理由で農業分野への就労に関心を寄せていますか

保護者が生徒の農業分野への就労に関心を寄せる理由は？



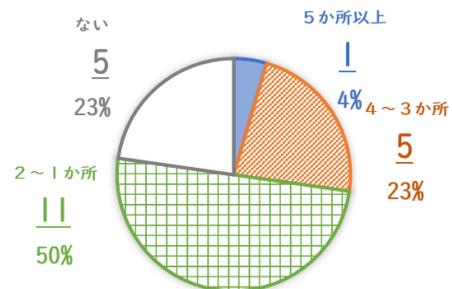
(質問 17)

農業分野での産業現場実習の実績は過去3年間で延べ何か所ありますか

(単一回答)

⇒「ない」とお答えの方は(質問 20)にお進みください

産業現場実習の実績は?(過去3年)

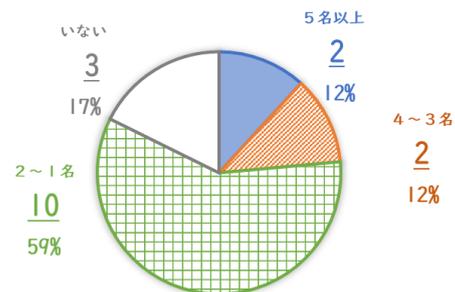


(質問 18)

産業現場実習を経て、農業分野に就職した生徒は過去3年間でどのくらいいますか

(単一回答)

農業分野に就労した生徒の数は?



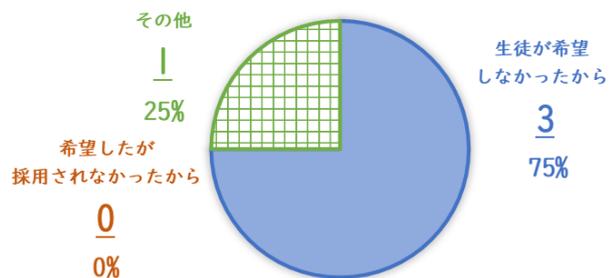
(質問 19)

前問に「いない」と答えた方にお聞きします。就労にいたらなかった理由は何ですか

(単一回答)

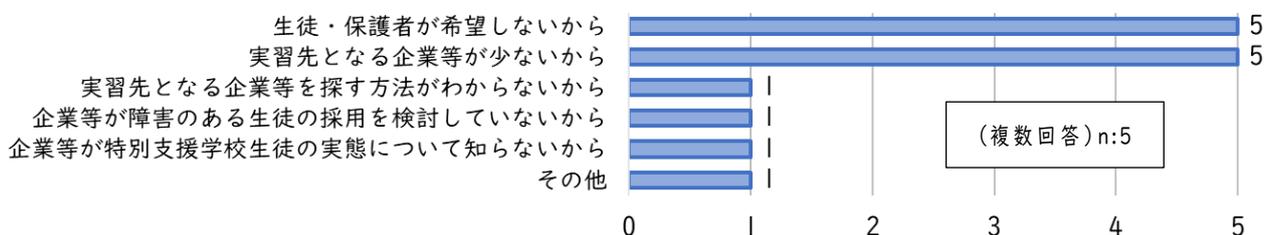
⇒(質問 21)にお進みください

就労にいたらなかった理由は?



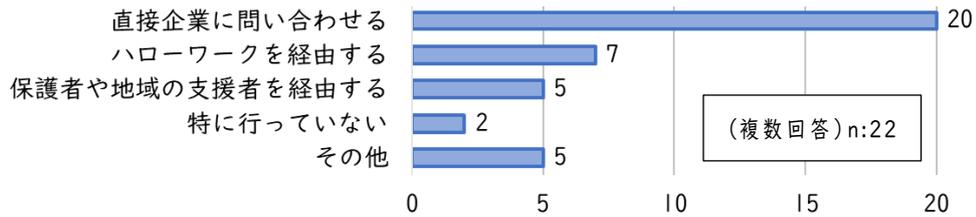
(質問 20) 農業分野での産業現場実習の実績がない理由は何ですか

農業分野での産業現場実習がない理由は?



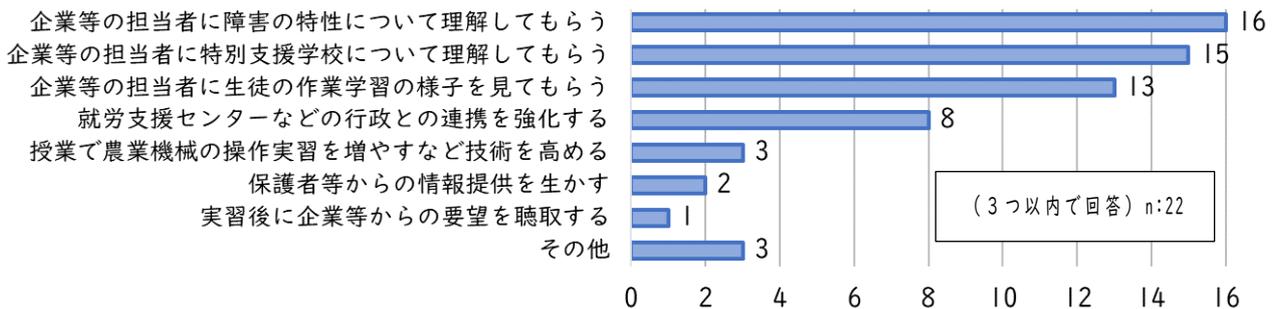
(質問 21) 産業現場実習の実習先の新規開拓はどのように行っていますか

産業現場実習先の新規開拓はどうしている？



(質問 22) どうすれば農業分野での産業現場実習受入先は増えると考えますか

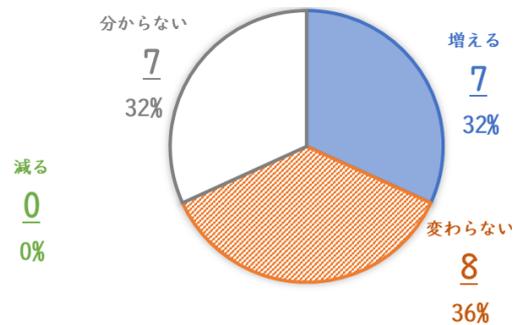
どうすれば産業現場実習の受入先は増える？



(質問 23)

農業分野での産業現場実習は今後どうなると考えますか (単一回答)

産業現場実習の数は今後どうなる？



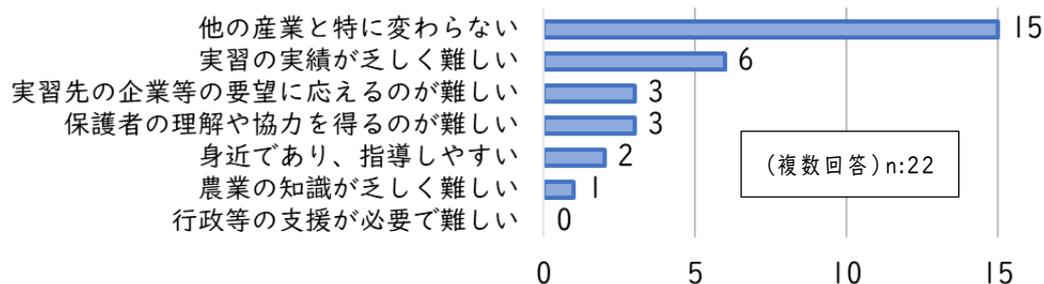
(質問 23-2) 前問でその選択肢を選んだ理由を教えてください

増える	農業関係者の高齢化で、農地運営維持の必要性があるため。
増える	学区域やその周辺で農業分野を内容とする事業所及び企業が少しずつ増えているから。
増える	年々、農園が増えているのを感じているため。
増える	実習の受け入れ先が増えてきているから (学校訪問あり)
増える	知的障害の特性が比較的農業分野での活躍につながるケースが多い。
増える	農業分野で活動する就労継続支援B型事業所が地元で複数開設された。
変わらない	多少増えているように感じるが、場所 (農地) の確保が必要であり、地域差がある。本校生徒からの希望者は多くないから。
変わらない	農業を希望している生徒、保護者が少ないから。

変わらない	実習希望者が増えているという印象がない。機械化など活動内容が難しい面が増える。
変わらない	畑作業は交通不便な割に朝が早い。
変わらない	希望する生徒が少ない、通勤しやすい場所が少ない。
変わらない	本校からの通勤圏内で、新しく農業分野での事業所ができる話を聞かないため。
変わらない	安定した収入が見込めることと、送迎の充実が見込めないと生徒が希望をしても教員としては勧めることを躊躇する。
変わらない	毎年、学年で1名程度の農業関係での実習希望者はいるが、増えもしないし減りもしない。
分からない	会社と障害者をコーディネートする企業が登場しているが、在学中の現場実習を経てという形での採用とはなっていない。
分からない	今後農業分野の実習は増えていく可能性はあると考えているが、生徒保護者の希望が増えていくとは限らないため。
分からない	本人・保護者への情報提供後の希望者が、例年かなり少数（皆無に近い）のため、今後の見通しがわからない。
分からない	農業がしたいと生徒自身から出てくる可能性は現段階では少ない。清掃や接客というのはわかりやすく希望が出やすい。
分からない	数年前から農福連携という言葉は聞いていたが、ほとんど前進がないため。

（質問 24） 農業分野での産業現場実習に臨む際の指導は他の産業と比較してどう考えますか

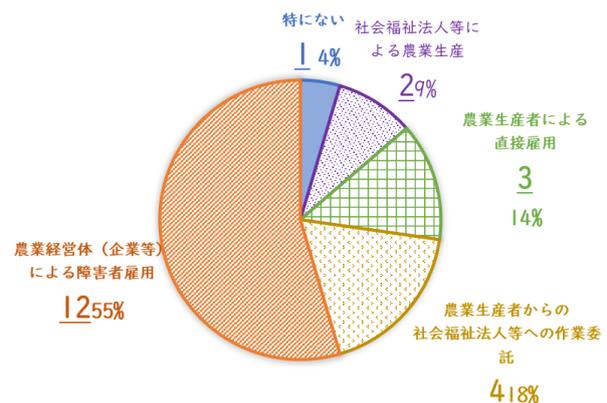
農業分野の現場実習の指導は？



（質問 25）

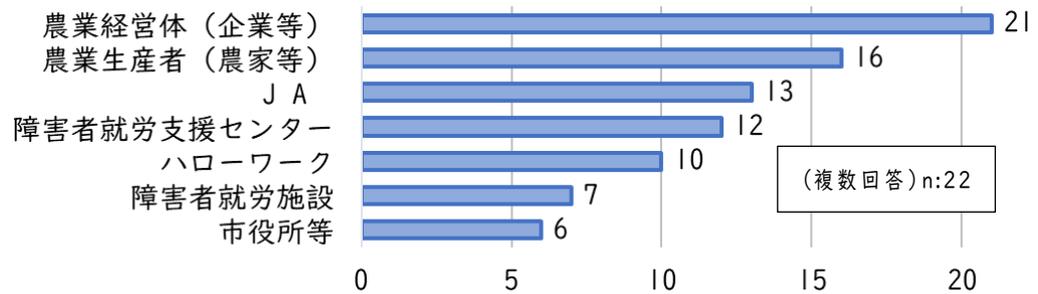
農業分野への生徒の就労（農福連携）
はどんな形態が良いと考えますか
(単一回答)

農福連携はどんな形が良い？



(質問 26) 農業分野への生徒の就労（農福連携）を推進するには、どのような機関との連携が必要だと考えますか

農福連携には、どんな機関との連携が必要？



(質問 27) 以下の質問は自由記述でお答えください

●農業分野への生徒の就労を推進する場合に企業等の担当者に聞きたいことがあればお聞かせください

学卒での採用だと、4月で企業の繁忙期と重なると予想され、指導・支援が難しいのでは。

どのような人材を必要としているか。また雇用形態について。

障害特性への理解、作業内容とその発展性、どのような就労への意識、姿勢を望んでいるか。

(障がい特性に応じた)工夫点。

将来の経営の見通し、仕事内容・雇用条件についての考え。

天候不順や農閑期などの休業になった場合の補償について。

障害者が行える仕事には、具体的にはどのような仕事があるのか。生徒に説明しやすい資料等の提供はしていただけるか。

障害者雇用という形態で、彼らの特性を生かして長期雇用を実現する方法。

雨の時の作業内容、就業時間の確保（収入の安定）、指導体制、通勤（送迎）、販路について。

年間を通しての勤務時間や給料が安定しているか、仕事が確保できるか。

業務内容、活動時間、収入等の状況について。

●農業分野への生徒の就労を推進するのに必要な情報を聞かせください

実習あつての就労、まずは保護者への情報発信の工夫が必要と考える。

産業現場実習を受け入れていただける企業の情報。

学校の所在地の地域特性もあるが、農業分野での就労先についての情報。

作業場所への交通手段がない生徒が多い為、集合拠点からの送迎が必要。

実際の仕事は、視覚的にわかるもの、動画があると選択しやすい。

受け止める側の障害者理解と就労希望者の基本的・専門的知識の習得。

作業内容、就業時間、指導体制、通勤方法。

受け入れ事業所の作業内容、活動時間、収入（工賃）等について。

● 農業分野への生徒の就労について、お考えがあればお聞かせください

年間を通して安定的な仕事の確保が必要。

即実践ではなく、A型事業所のように時給・短時間の雇用で訓練をしてからの正式雇用のほうが時間をかけて生徒を育てられるのでは。

農業分野で就労先によって生産物の取り扱いが異なるが、販売につながるような取組だと、より勤労意欲が維持できるのではないか。

障害特性などから向いていると思われる生徒もいるが、保護者の意識や本人の経験の少なさ等から就労を希望しないケースがある。授業だけでは十分ではない面もあり、きっかけとなる体験や場があるとよい。

求められる作業量に幅があり、可能性が大きい分野と考えている。

市街地以外で生徒の居住地の近くに事業所があれば考慮の対象になる。

農業に適性のある生徒、希望する生徒はいるのでまずは産業現場実習の機会があればと考える。学校と企業等の相互理解の場もあればと思います。

作業学習で畑班や花班での様子を見ていて、雇用先があればマッチする生徒もいる。事業所以外でなかなか雇用先が少なく通勤手段などの問題もある。

生徒は、農業に係らず、同じ作業内容の継続で体得していくケースが多いので、数種類の作業を並行的に行う場合は、同一人物の支援・同じ手順を原則として取り組むと効果的である。

生徒は農作業が好きで、あっている職業であるのならぜひ就労してほしい。

雇用にはコーディネーター兼担当者が必要。学校は産業現場実習の工夫が必要。

正直なところ、知的の高い生徒で農業を希望する生徒は少ないように感じる。知的にはそこまで高くなくても、一生懸命頑張れるような・農業が好きな生徒はいる。ただ、そういった生徒は自力で通うのが少し難しいところがあるので、拠点送迎などをしていただくことで進路の幅が広がると考える。

農業分野の実習の情報は、個人の農家からの話が多い。社会保険の加入など考えると、本人・保護者は企業等での障害者雇用での就職を望む。安定した給料面や補償等を考えると、どうしても企業ベースで、他の障害者の仲間がいて、支援者も複数いたほうが本人も安心・安定して勤務できる（個人農家のアットホームな雰囲気での農業の仕事の良さはあるのだが）

適性がある生徒の受け入れを積極的に行っていただけの事業所が増えるとありがたい。

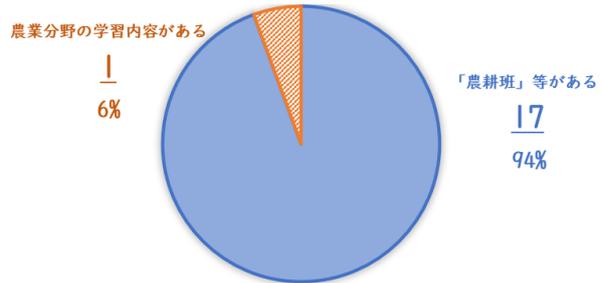
◆作業学習・学校ファーム担当者への質問

(質問 11)

高等部の作業学習等に「農耕班」等の設置または農業分野の学習内容がありますか (単一回答)

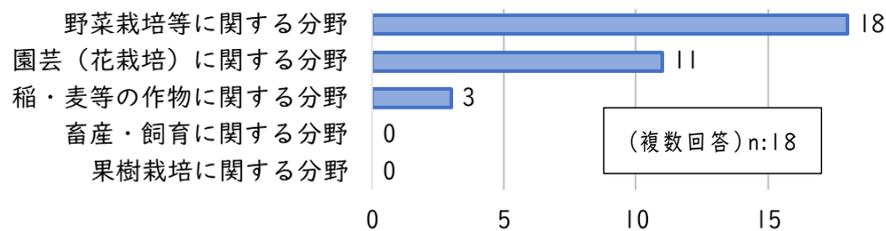
⇒ 「特に設置していない」とお答えの方は (質問 16) にお進みください

作業学習に農業分野の内容はある？



(質問 12)

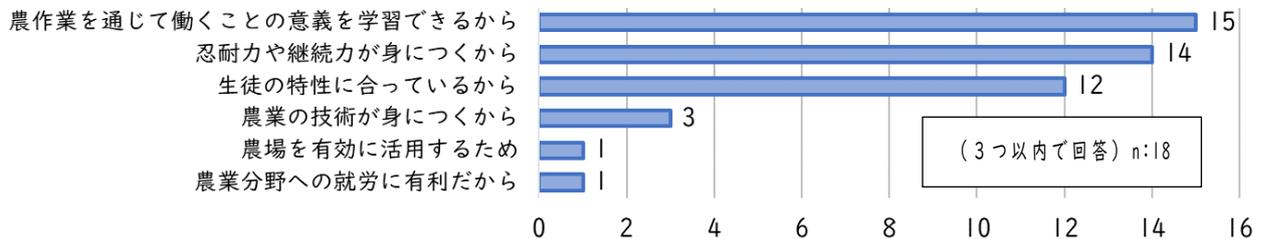
農業に関する作業学習等では、生徒はどんな分野の学習をしていますか
作業学習では、どんな農業分野の内容を学習している？



(質問 13)

農業に関する作業学習等に取り組んでいる理由は何ですか

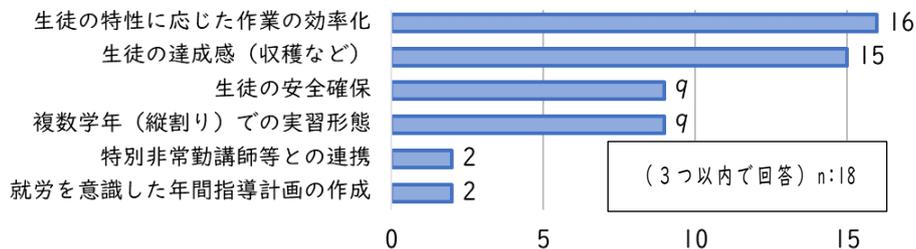
農業分野の作業学習に取り組む理由は？



(質問 14)

農業に関する作業学習等の際に工夫していることはどんなことですか

農業分野の作業学習で工夫している事は？



(質問 15)

前問で、具体的な工夫の内容があれば教えてください

複数学年グループによるチームを編成し、自主的に活動する場を設定する。

収穫したものを教職員に販売する

担当の作物をその学年・生徒が継続して管理することで、一貫した栽培を通して達成感や責任感、生命の生長に対する感覚を養う。

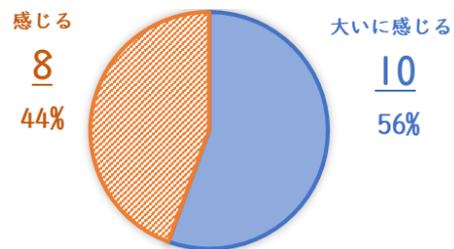
現実度を高め、できる・できそうな活動に主体的に取り組めるように支援する。
安全確保として、生徒が耕うん機や刈払機などを使用する際には、教員が一人付くようにしている。生徒の達成感としては、収穫物を調理して食べたり（現在は感染症予防のため中止）持ち帰れたりできるようにしている。
 重複した障害のある生徒も参加できるよう、作業内容を細分化したり、コイン精米所に米ぬかをもらいに行く作業を設定したり工夫している。
 具体的な指示や視覚支援。除草では生徒の区画を決め、割り当てられた作業範囲が分かるようにしている。
 1日の仕事内容を視覚的に確認し、達成感につなげるようにしている。

(質問 16) 農業に関する作業学習等を行っていない理由は何ですか ※回答対象なし

(質問 17)

農業に関する作業学習の必要性を感じますか (単一回答)
 ⇒「大いに感じる」「感じる」とお答えの方は (質問 19) にお進みください

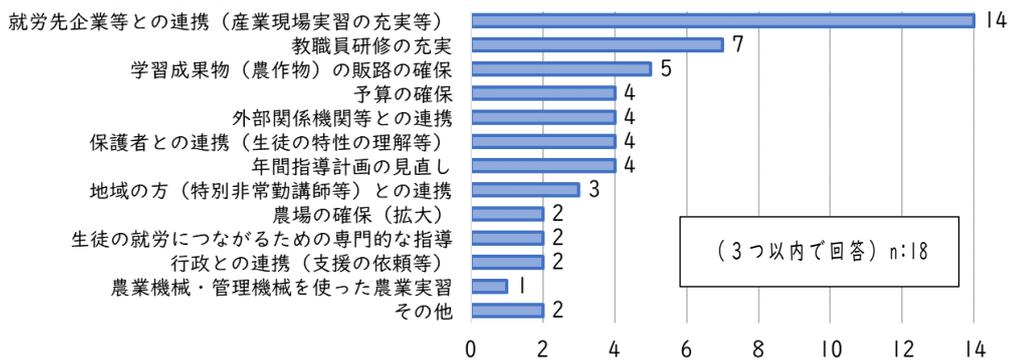
農業分野の作業学習の必要性は？



(質問 18) 農業分野の作業学習の必要性を感じない理由は何ですか ※回答対象なし

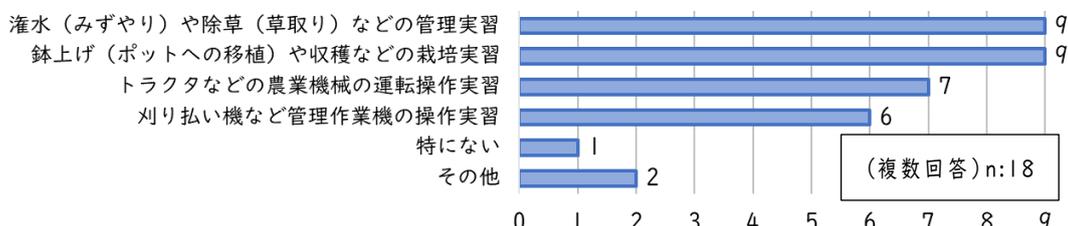
(質問 19) 今後、農業に関する作業学習等をより一層充実させるために必要と考えるものを選んでください

農業分野の作業学習を充実させるのに必要なのは？



(質問 20) 農業に関する作業学習等の授業内でもっと行ったほうが農業分野への就労に有利になると考えるものはありますか

就労に有利になる作業学習の内容とは？



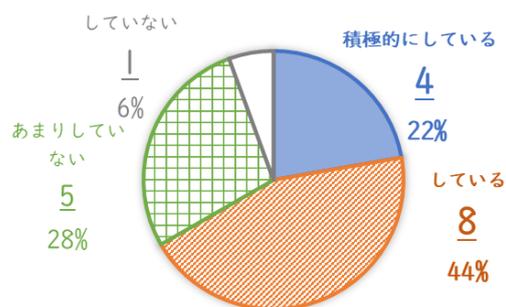
就労に有利な内容の指導は？

(質問 21)

農業に関する作業学習等において、就労の際に有利になると考えられる農業技術の習得を指導していますか

(単一回答)

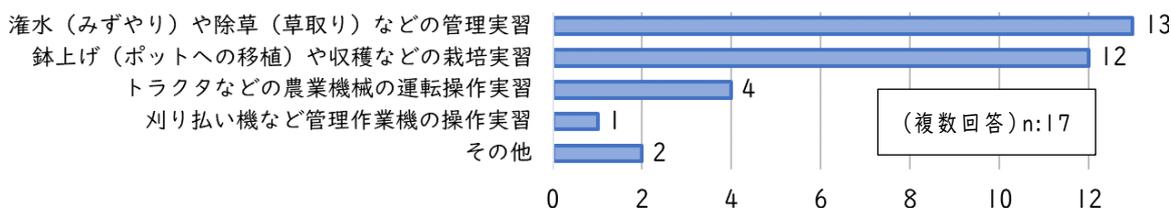
⇒「していない」とお答えの方は(質問 24)にお進みください



(質問 22)

作業学習等において、どのような農業技術の習得を指導していますか

作業学習では、どんな技術の習得を指導している？



(質問 23)

農業技術の指導のなかで、生徒の良い変容を促す工夫があれば教えてください

生徒の実態に合わせた作業を用意する。

販売会で自分たちの育てた野菜を自ら接客して販売し、購入者から感謝の言葉をいただいたことで大きな声が出るようになった(自信がついた)

種子から芽が出て大きく育ち果実がなるという、成長の過程を気づかせ喜びを感じられる言葉かけをしている。成果物を食べる(食育)ことや成果物を販売しお客様に喜ばれることを通じて、喜びや達成感を感じられるように指導している。

積極性・協調性・主体性等で改善したことは生徒の特性に応じて評価する。

初めて農業を学習する生徒が多いので、言葉の説明だけでなく見本や手本を見せるようにしている。

不登校の生徒が農作業に興味をもち、作業学習の曜日は登校することが多くなった。実習で農業関連の場所に行くことができ、働くイメージを持ち始めた。

現在は感染症対策のため実施していないが、自分たちが育てた野菜や作物を食べることで、手軽に購入できる野菜の価値を知る機会としている。

重い荷物を持ったり、低い姿勢で仕事をしたりすることで、バランスの取れた動きができるようになる。忍耐力の持続も見られ、精神面が強くなる。

生徒にとってより適性のある作業を探す。

(質問 24) 以下の質問は自由記述でお答えください

● **農業に関する作業学習等を充実させる場合に必要な情報や教材はありますか**

栽培に関する DVD 教材。

現場実習先の情報。週休日等の管理のための自動灌水設備や温度管理設備。

就労先の具体的な仕事内容や職場環境の情報。就労につながるスキルの実態。

就労するうえでどの程度の知識や技術を身につけた方がいいか、具体的に知りたい。

農作物の年間計画がわかる情報があると良い。

適正な環境（畑等）の確保をしている。広すぎる畑は逆効果でした。耕耘機など危険を伴う機器も教員引率の下、環境を整えて全生徒に経験させている。

農作業に使われている機械類の充実。他校での実践内容。

施設・設備の充実、農業は資材費がかかるために予算の確保が必要、雨天時の作業場所の確保。

● **農業分野への生徒の就労について、お考えがあればお聞かせください**

農業分野への就労が向いていると考えられる生徒もいるので、就労が可能な企業が近くにあれば、積極的にチャレンジさせたい。

まだ知的障害への理解や支援が浸透していないと感じる。ただの労働力としてではなく、就労した生徒がやりがいをもって充実した生活を送れることまで考えた、包括的な支援体制が必要だと感じる。

授業や実習を通して、生徒の希望があれば就労を勧めたい。しかし、受け入れ体制が整っている企業は少なく、就労するケースも稀である。

問題行動のある生徒が農作業になると気持ちを切り替え集中して取り組む場面がある。そんな生徒の力が活かせるように、指導する側の研修体制も整えていくことでより良くなっていく（農業指導に係る長期研修）

農業就労に適性があると思われる生徒は一定数いる。生徒の特性に応じた支援方法について、就労先に伝え理解してもらう必要がある。

福祉作業所の作業で行っている所は多いが、一般企業としての就労先はなかなか見つからない。農業分野の就労情報がほしいところと農業の専門性がほしいところである。

農業が主体の就労先について、あまり情報を持っていないので知りたい。

これまでは、生徒の指示理解力や集中力の向上などを目的としてきた。しかし農業分野への就労を考える場合「売れるものを育てる」ことも目的としていく必要があるので、授業計画を見直していこうと思う。

就労先確保の方法として、学校の情報（取組）を提供する手立てがあるとよい。

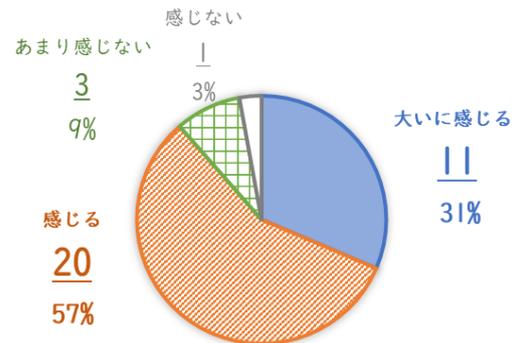
農福連携の取り組みが広く普及すると、就労人数も増える。

(質問 11)

農業に関する作業学習の必要性を感じますか (単一回答)

⇒「大いに感じる」「感じる」とお答えの方は (質問 13) にお進みください

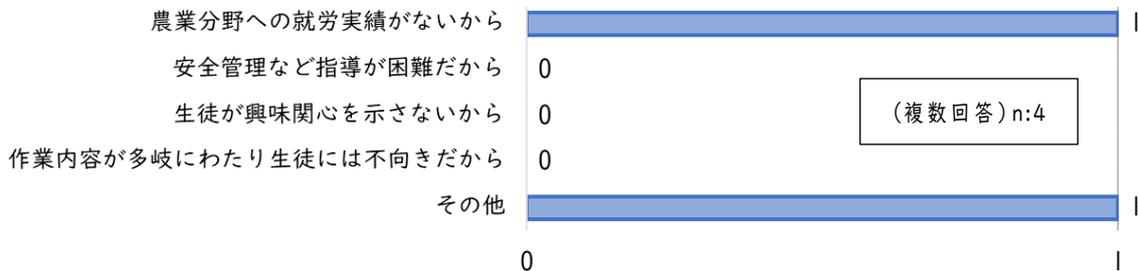
農業分野の作業学習の必要性は?



(質問 12)

農業に関する作業学習の必要性を感じない理由は何ですか

農業分野の作業学習の必要性を感じない理由は?

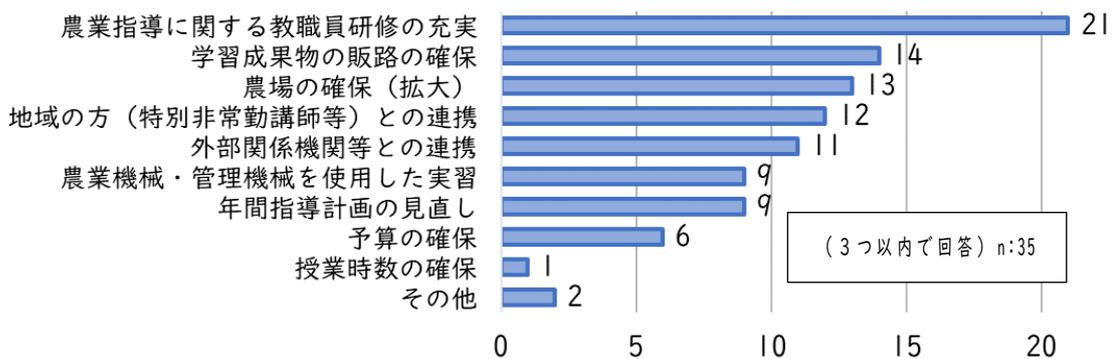


【その他の内容】 農業の専門知識の勉強も必要だが、就労に一番大切な力を作業学習から得られる環境がまだ整いできていないため

(質問 13)

今後、農業に関する作業学習等をより一層充実させるために必要と考えるものを選んでください

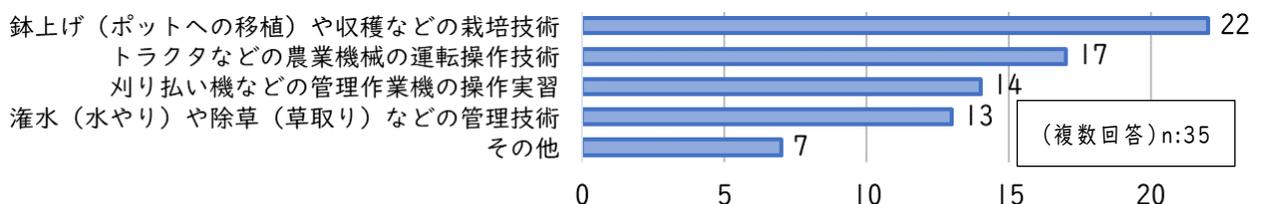
作業学習を充実させるのに必要なものは?



(質問 14)

農業に関する技術について、ご自身が習得したいものはありますか

自身が習得したい農業の技術は?



(質問 15) 以下の項目についてお考えがあればお聞かせください

●農業に関する作業学習等について

分校は普通科で農業専門の教員や実習助手が配置されていないのがネックです。

農業班＝農業への就労、とは考えていません。どこでも通じる「働く力」を育てるのが作業学習であり職業学科の専門教科だと考えています。

専門性を持った教員の配置や指導内容の研修が必要と感じます。

単に教師による技術指導のみでなく、生徒自身が何を植えるかを考えるなど、プロジェクト学習*的な要素を取り入れると、総合的な実り多い学習につながる。

(＊体験的・探求的な課題解決学習法)

作物によって作業内容が異なり、多種多様な作物を作ることは見通しをもちづらい面がある。作物の収穫、出荷作業も同じ形、色でないわかりづらさがある。

半年ほど農業に関する作業学習を経験したが、良い面がたくさんある。

外部の特別非常勤講師ではなく、県の農業担当の技術者や農業大学の先生に指導に来ていただきたい。

生徒の障害特性に応じた指導支援（環境の構造化、作業活動の構造化等）の工夫が必要だと思います。

農作物と関わることで、心身の成長につながることを期待できると考える。特別支援教育の教材として適していると感じている。その教材を生かすためには、教員の専門性が求められるが、必ず農業の技術・興味・意欲を持った教員がその学校にいるとは限らない。今回は江南支所によるアンケートですが、各都道府県でどんな農園芸の授業を組み立てればよいか、情報（極端に言えば指導計画）をいただけたら、より生徒が意欲をもちやすく、成長しやすい環境が出てくるのではないかと思う。

教員研修の充実が必要。受け入れ先（農業分野）とも連携できると良い。

支援がより必要な生徒にも農業作業は仕事の切り出しがしやすく適する。

学校の畑だと家庭菜園の延長程度の作業学習になってしまう。

農業は、知的障害において障害の程度にかかわらず取り組める良い活動だと思う。重度の生徒には、運びという2点間の移動で道具や収穫物を運ぶ活動を多く設定でき、軽度の生徒には、年間の畑の使用計画を立てることをはじめ、作物の特性を学習し、収穫物を調理するなどが考えられる。ただ、長期休業中の畑の管理などは、どこの学校も抱えている課題ではないか。

●農業分野への生徒の就労について

一般就労での受入企業が拡大していけば、就労希望者は出てくる。

農業が人手不足であることは事実だと思う。障害のある人にも農業に力を発揮できる人はたくさんいるし農家も助かるというように、WIN-WINの関係ができることが魅力的だと思う。前任校（職業学科）では近隣の農家さんのところで日常的に作業をさせていただいたり、市の農業振興課とも協力したりしていた。

生きがい、やりがいのある仕事内容であるべきと考えます。

この夏に個人的に受けた研修で、実は障害者就労の多くの部分を中小企業や町工場が支えていることを知った（厚労省の資料）。そういう意味では、家族経営や小さな法人の多い農業分野でも可能性があると感じた。

向き不向きがあるので一概にダメとは思わないが、作業内容や就労先の理解など、課題は大きいと感じる。もちろん外国人技能実習生と同じスタンスになってほしくないと思うのが現状です。特に就業規則面や給与等、個人事業主だと見えづらさがある。あとは障がい特性の理解等ハードルが高いと感じる。

一般の人と同様に働くというより、段階的に働ける仕事がある分野という期待がある。生徒が自分自身の選択の1つとして考えた（希望がある）場合、一般農家の受け入れ体制や、障害理解等が出来ると良い。

農業専門コースを行っている中で、細かな作業が苦手な生徒でも得意とする作業を見出す時があるが、得意な分野で就労先が見当たらないのを残念に感じる。

本人が希望し保護者の理解があれば、就労に結びつくと良い。ただし、受け入れ側の障害理解が進むよう継続的に関わっていく支援体制の整備が必要。

特例子会社による農場や、障害者雇用を増やすために、会社で使うためのハーブ育成、キノコの栽培工場といった就労先が考えられるが、少なくとも本校近辺だと数は少ない印象。農園芸は各世帯でやっていることが多く、障害者雇用となると清掃分野や倉庫作業等と比べると可能性は低い印象です。職業学科のどの専門教科でも言えますが、自分が中心にやった専門教科の分野に就職できるとは限らない、ということは早め早めに生徒・保護者に伝える必要がある。

積極的に進めていけると良い。農業分野への人材不足も課題となっている今、様々な特性を活かせる場所として大いに期待している。

季節により作業内容が異なる懸念がある。

積極的に進められるとよい。

実際、農業はきついイメージがあり、体力のある生徒向きかなと思う。

仕事内容が単純作業だったり、指導員が定年後の年配の方だったりして障害についての理解が少なく就労を勧めにくかったことが多くある。

学校では生徒の特性に応じて農業の産業現場実習を提案することもあるが、農業への生徒・保護者の持つイメージが昔のまま（夏は暑い、冬は寒いなど）であり、学校が紹介してもなかなか保護者の同意を得られない。



ご協力ありがとうございました

特別支援学校生徒に対する「農業分野への就労支援」 - 企業・法人様向けアンケート調査 -

※本アンケート調査の集計結果は報告書等で公開しますが、企業名・回答者名等は公開しません。優れた取組については報告書等で紹介させていただくこともございます。その際は改めてご相談させていただきます。

※本アンケート調査における用語の定義は次のとおりです

学校：県立特別支援学校（知的障害・高等部）

生徒：上述の学校に在籍する知的障害のある高等部生徒（15歳～18歳）

※選択肢のある質問は にチェックをお願いします

※質問数は27問、回答時間は20分程度です よろしくお願いいたします

【お問い合わせ先】埼玉県立総合教育センター江南支所 農業教育・環境教育推進担当
〒360-0113 埼玉県熊谷市御正新田1355-1 TEL 048-536-1586 FAX 048-536-1710
e-mail k361586@pref.saitama.lg.jp

【基本事項について】 ※令和3年11月1日現在でお答え下さい

（質問1）企業名（法人名） ※必須 （ ）

（質問2）回答者氏名 ※任意 （ ）

（質問3）回答者メールアドレス ※任意 （ ）

※氏名・メールアドレスについては回答内容についてお伺いする場合に使用させていただきます

（質問4）御社の主な経営分野（複数回答可）

野菜栽培に関する分野 稲・麦等の作物栽培に関する分野

果樹栽培に関する分野 花き栽培に関する分野

造園や林業に関する分野 畜産・飼育に関する分野

その他の分野（ ）

（質問5）国等は「農福連携」で障害者等の就労や生きがいづくりの場を生み出すだけでなく、担い手不足や高齢化が進む農業分野において新たな働き手の確保につながる取組を推進していることをご存じですか（1つ回答）

知っている 聞いたことはある

知らない

(質問6) 障害のある方の農業分野への就労(農福連携)は今後どうあるべきだと考えますか(1つ回答)

- | | |
|---------------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 積極的に推進すべき | <input type="checkbox"/> 推進すべき |
| <input type="checkbox"/> あまり推進する必要はない | <input type="checkbox"/> 推進する必要はない |
| <input type="checkbox"/> わからない | |

(質問7) 障害のある方が農業分野に就労(農福連携)することについて、「メリット」と考えるものを選んでください(3つ以内で回答)

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 労働力の確保ができる | <input type="checkbox"/> 経営規模が拡大できる(新規部門の開設等) |
| <input type="checkbox"/> 障害の特性に応じて、繰り返し作業などを配分できる | <input type="checkbox"/> 職場内の多様性の理解を進めることができる |
| <input type="checkbox"/> 障害のある方に自信や生きがいの機会を提供できる | <input type="checkbox"/> 企業としての社会的な責任を果たすことができる |
| <input type="checkbox"/> 法定雇用率を充足できる | <input type="checkbox"/> 特にない |
| <input type="checkbox"/> その他() | |

(質問8) 障害のある方が農業分野に就労(農福連携)することについて、「課題」と考えるものを選んでください(3つ以内で回答)

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 賃金に見合った労働力を確保できない | <input type="checkbox"/> 障害に配慮した環境を新たに整備しなければならない |
| <input type="checkbox"/> 作業内容の指示などに時間にとられる | <input type="checkbox"/> 事故防止策などの負担が増す |
| <input type="checkbox"/> 職場の人間関係などが難しくなる | <input type="checkbox"/> 特にない |
| <input type="checkbox"/> その他() | |

(質問9) 障害のある方が農業に従事する場合、どんな分野に適性があると考えますか【御社の経営分野に関わらず、一般的な考えでお答えください】(複数回答可)

- | | |
|--------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 野菜栽培に関する分野 | <input type="checkbox"/> 稲・麦等の作物栽培に関する分野 |
| <input type="checkbox"/> 果樹栽培に関する分野 | <input type="checkbox"/> 花き栽培に関する分野 |
| <input type="checkbox"/> 造園や林業に関する分野 | <input type="checkbox"/> 畜産・飼育に関する分野 |
| <input type="checkbox"/> その他の分野() | |

(質問10) 障害のある方を募集する場合、どこに問い合わせをしますか(複数回答可)

- | | |
|--|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 障害者就労支援センター | <input type="checkbox"/> 障害者就労施設 |
| <input type="checkbox"/> 公共職業安定所(ハローワーク) | <input type="checkbox"/> 特別支援学校 |
| <input type="checkbox"/> 市役所等行政機関 | <input type="checkbox"/> 企業の関係者 |
| <input type="checkbox"/> その他() | |

(質問 11) 過去 3 年間に障害のある方の雇用実績はありますか (1 つ回答)

- ある ない

(質問 12) 特別支援学校生徒 (知的障害・高等部) の【別紙 2 - 「5」】現場実習 (インターン) 受入れ実績はありますか (1 つ回答)

- 毎年ある 2 ~ 3 年に 1 度はある
 過去にはあったが現在はない ない

(質問 13) 特別支援学校生徒の就労では、【別紙 2 - 「5」】現場実習 (インターン) を通して個々の状況を理解していただいたうえで企業側に採用を検討いただくことが多いのですが、ご存じでしたか (1 つ回答)

- 知っていた 知らなかった

(質問 14) 特別支援学校がどのように取り組めば【別紙 2 - 「5」】現場実習 (インターン) の受入先が増えると考えますか (3 つ以内で回答)

- 学校について企業等に広報する 授業での学習内容等を企業等に広報する
 生徒の障害の特性について理解を促す機会をつくる 農業に関する学習や体験を充実させる
 企業側に実習の希望をより多く伝えて連携を強化する 就労支援センターなどの行政の支援を強化する
 その他 ()

(質問 15) 今後、特別支援学校から【別紙 2 - 「5」】のような現場実習 (インターン) の希望があった場合にはどのように対応しますか (1 つ回答)

- 積極的に受け入れたい 受け入れたい
 どちらかと言えば受け入れない 受け入れない
 わからない

(質問 16) 【別紙 2 - 「3」】をご覧になって、今後特別支援学校との連携についてどうお考えですか (1 つ回答)

- 積極的に連携を検討したい 連携を検討したい
 まずは特別支援教育への理解に努めたい 連携する予定はない
 わからない

(質問 17) 特別支援学校学卒者の採用実績はありますか (1 つ回答)

- ある ない

(質問 18) 特別支援学校の生徒は授業（作業学習）で野菜生産や花き生産などの農業分野の作業の学習に、年間を通して取り組んでいることをご存じですか（1つ回答）

- 知っている 聞いたことはある
 知らない

(質問 19) 特別支援学校の生徒を学卒採用する場合、どのようなことを求めますか（3つ以内で回答）

- あいさつや敬語・返事など、基本的なコミュニケーションの力 報告・連絡・相談が細かにできる力
 休まず出勤できる力 決まりごとが守れる力
 対象物の大きさや色を見て的確な選別作業ができる判断する力 農業機械（トラクタなど）や管理作業機（草刈り機など）の操作技術
 農業に関する学習や体験の経験 自動車運転免許の取得
 特にない
 その他（ ）

(質問 20) 特別支援学校の生徒を学卒採用する場合、企業として期待することを選んでください（3つ以内で回答）

- 労働力の確保ができる 経営規模が拡大できる（新規部門の開設等）
 特性に応じて、繰り返し作業などを配分できる 職場内の多様性の理解を進めることができる
 障害のある方に自信や生きがいの機会を提供できる 企業としての社会的な責任を果たすことができる
 法定雇用率を充足できる 特にない
 その他（ ）

(質問 21) 県では、雇用環境改善等に関する相談窓口として「埼玉県農業経営相談所」を設置していますが、ご存じですか

- 利用したことがある 利用したことはないが、知っている
 知らない

(質問 22) 障害のある方を雇用する場合の特性に応じた仕事内容の工夫や留意されている点があれば御教授ください

例) 調製時の専用ゲージの使用・作業動画の視聴・安全ばさみの利用 など

(質問 23) 障害のある方の就労において、繁忙期・閑散期がある農業分野で年間を通して安定した雇用をするために取り組んでいることがあれば御教授ください

(質問 24) 特別支援学校の生徒を学卒採用する場合に不安を感じる点があれば教えてください

(質問 25) 「特別支援学校生徒の農業分野への就労」について、期待することがあれば教えてください

(質問 26) 特別支援学校生徒を学卒採用する場合に行政に対してどのようなことを要望しますか

(質問 27) 総合教育センター江南支所(農業教育・環境教育推進担当)では次のような事業に取り組んでいます。特別支援学校生徒の農業分野への就労支援に関して総合教育センター江南支所に対して何を期待しますか

【江南支所の主な事業】

各種教職員研修(年次等) 農業教育に係る県立学校生徒対象の実験・実習 特別支援学校生徒対象の実験・実習(来所するものと出張のものあり) 不登校児童・生徒対象の「農と緑のふれあいスクール」(来所するものと出張のものあり) 小学生対象の「食と農のチャレンジ教室」 学校教職員対象の「活かすぞ!学校ファーム研修会」 高校生対象の「農業・環境・自然体験学習」

(お願い)【別紙3-「4」】のとおり、今後生徒の農業分野への就労支援を一層推進したいと考えますが、プログラムの作成などにご協力いただけますか(1つ回答)

積極的に協力したい

協力を検討したい

協力は難しい

わからない

※アンケート記入の前にご覧ください。

（別紙２）

令和３・４年度調査研究事業

「特別支援学校生徒に対する農業分野への就労支援」についての調査研究

－ 特別支援学校対象 調査結果 －

今回のアンケート調査は、本調査研究で行った次の調査結果を基に作成しております。本アンケート調査の中には次の調査結果を踏まえた質問がありますので、事前に本資料をご覧くださいませようお願いします。

対 象：県立特別支援学校（知的障害・高等部設置校）県下２７校
 （校長・進路指導主事・作業学習担当者・教職員 回答数９３）
 時 期：令和３年８月３日～３１日
 実施機関：埼玉県立総合教育センター

１．調査結果・抜粋（複数回答可で実施、上位回答を掲載）

- ①農業分野への生徒の就労（農福連携）の今後はどうすべきかについて
 ・「積極的に推進すべき」「推進すべき」 計 ９７．１％
- ②農業分野への就労を推進することでの生徒にとっての「利点」について
 ・「就労場所の確保につながる」 ７８．３％
 ・「障害の特性を考慮した作業の設計が可能である」 ６４．１％
- ③農業分野での現場実習（インターン）の実績がない理由について
 ・「実習先となる企業等が少ないから」 ６２．５％
- ④農業分野への生徒の就労を推進するために今後の学校の取組として必要なことについて
 ・「就労先企業等との連携強化（現場実習の充実等）」 ７３．１％
 ・「就労先の情報収集」 ６４．５％
- ⑤どうすれば農業分野の現場実習受入先が増えるかについて
 ・「企業等担当者に障害の特性について理解してもらう」 ７２．７％
 ・「企業等担当者に特別支援学校について理解してもらう」 ６８．２％
 ・「企業等担当者に生徒の作業学習の様子を見てもらう」 ５９．１％
- ⑥農業分野への生徒の就労を促進するにはどんな機関との連携が必要かについて
 ・農業経営体（企業等） ９５．５％
 ・農業生産者（農家等） ７２．７％

2. 調査結果の記述部分・抜粋

- ①農業に適性があり就労を希望する生徒はいる。相互理解の場が欲しい。
- ②保護者と企業等に農業分野の理解を促す「情報発信」が重要である。
- ③農業分野は就労先についての情報が少ないので、進路指導が難しい。
- ④近隣で現場実習や障害者雇用を考えている企業や農家があれば紹介して欲しい。
- ⑤就労先を確保する方法として、学校の情報を提供する手立てが欲しい。

3. 調査結果の現状分析

以上より特別支援学校には農業に適性があり、就労を希望している生徒がいますが、就労に向けた現場実習先の情報が少なく、就職に至っていない現状が分かりました。学校は農業分野の企業の情報や連携を強く望んでいます。

4. 今後の方向性

特別支援学校生徒の農業分野への就労機会の充実や、農業を通じた共生社会の実現のため、本調査研究では知的障害のある生徒（15歳～18歳）の農業分野への就労を支援していきたいと考えています。

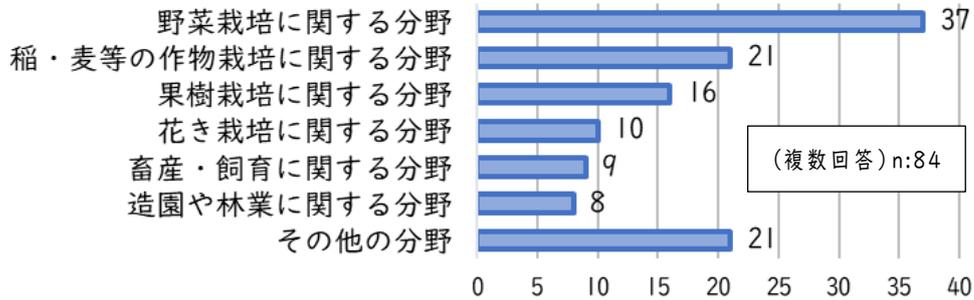
5. (参考) 特別支援学校卒業生の就職の在り方

実態として、特別支援学校生徒の就職は「現場実習」を経て行われています。主に高等部2年生から学習活動及び進路指導の一環として、職業に対する適性を見極めるために企業等での現場実習（インターン）を行います。その上で、生徒・保護者の希望と企業等の採用意向が一致した場合、学校は企業等からハローワークを通じ、障害者雇用の求人を得て就職内定に至ります。

Ⅲ 県内農業関連企業・法人に対するアンケート調査結果

(質問4) 御社の主な経営分野はどのような分野ですか

回答者の主な経営分野

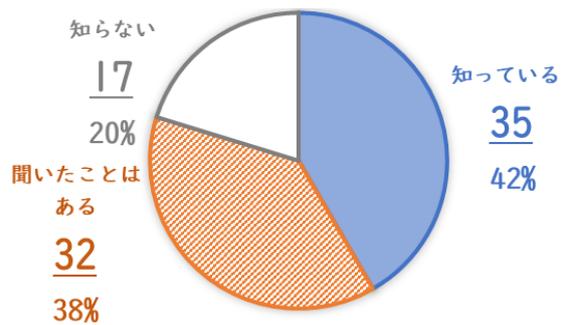


【その他の分野の内訳】お茶生産・製造販売 (4) 直営販売所運営 (3) きのみ栽培 (2)
 体験型都市農園 観葉植物リース (レンタル) 鉢物植物の生産・卸業 果樹野菜の観光
 農園事業 トウガラシ各種 苺の栽培 米・野菜の袋詰め 飲食業・不動産業 天然芝の生産
 レジャー業 産業廃棄物中間処理業 他

(質問5)

国等は「農福連携」で障害者等の就労や生きがいつくりの場を生み出すだけでなく、担い手不足や高齢化が進む農業分野において新たな働き手の確保につなげる取組を推進していることをご存じですか (単一回答)

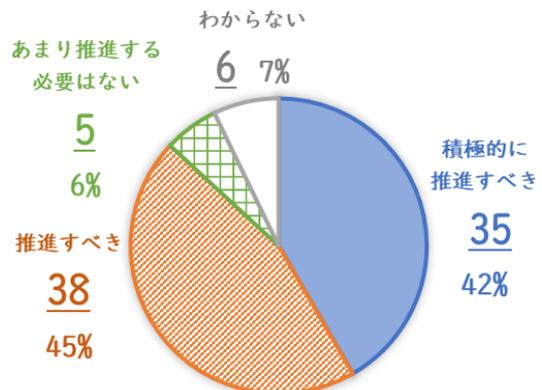
農福連携を知っている?



(質問6)

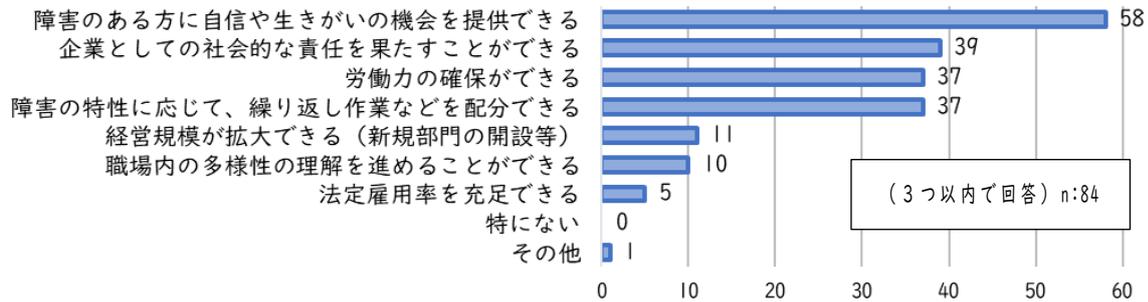
障害のある方の農業分野への就労(農福連携)は今後どうあるべきだと考えますか (単一回答)

農福連携の今後は?



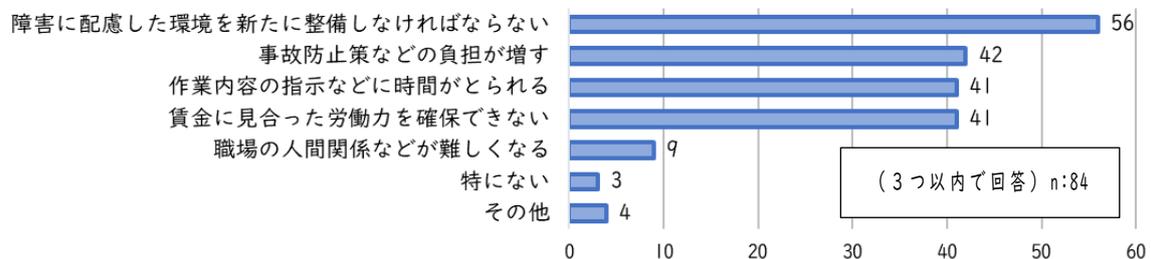
(質問7) 障害のある方が農業分野に就労(農福連携)することについて、「メリット」と考えるものを選んでください

農福連携のメリットとは？



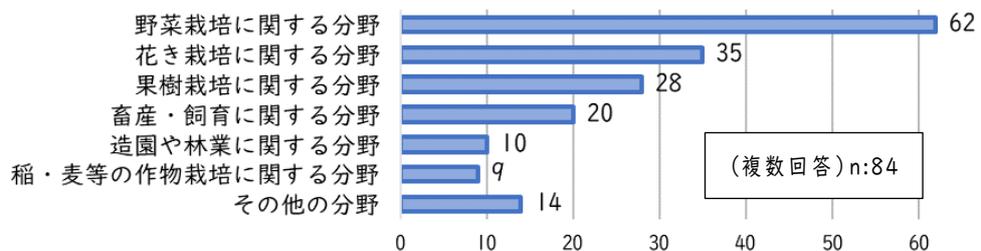
(質問8) 障害のある方が農業分野に就労(農福連携)することについて、「課題」と考えるものを選んでください

農福連携の課題とは？



(質問9) 障害のある方が農業に従事する場合、どんな分野に適性があると考えますか【御社の経営分野に関わらず、一般的な考えでお答えください】

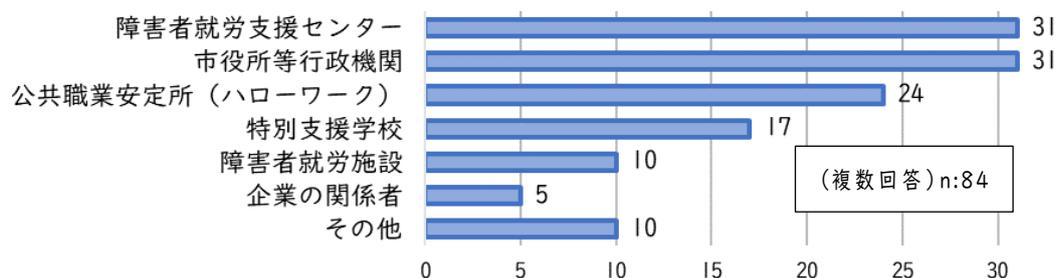
障害のある方が適性のある農業の分野は？



【その他の内訳】 ハウス栽培 野菜の加工 パン屋 人それぞれ見ながらが良い
事故の危険がない分野 単純作業(収穫や袋づめ) 細かい単純な仕事 他

(質問10) 障害のある方を募集する場合、どこに問い合わせをしますか

障害のある方を募集するときの問い合わせ先は？

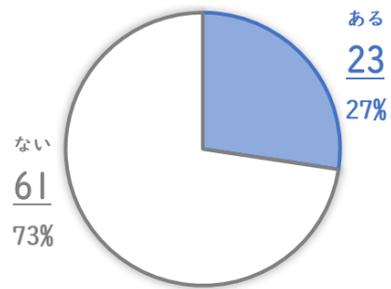


【その他の内訳】 農林振興センター 友人 他

(質問 11)

過去3年間に障害のある方の雇用実績はありますか（過去3年間）
（単一回答）

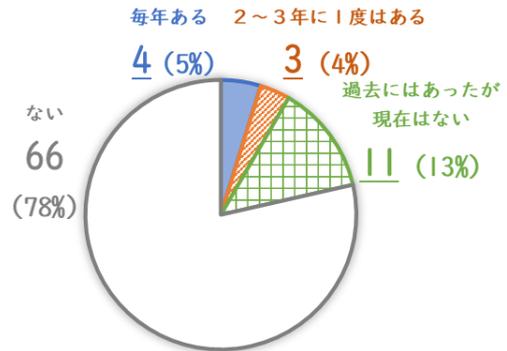
障害のある方の雇用実績は？



(質問 12)

特別支援学校生徒（知的障害・高等部）の【別紙2-「5」】現場実習（インターン）受入れ実績はありますか
（単一回答）

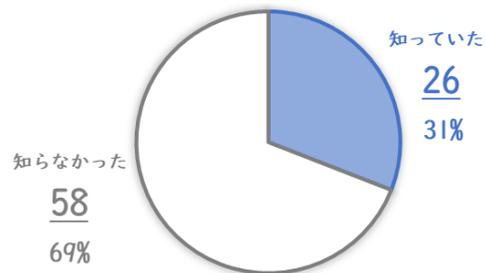
産業現場実習の受入実績は？



(質問 13)

特別支援学校生徒の就労では、【別紙2-「5」】現場実習（インターン）を通して個々の状況を理解していただいたうえで企業側に採用を検討いただくことが多いのですが、ご存じでしたか
（単一回答）

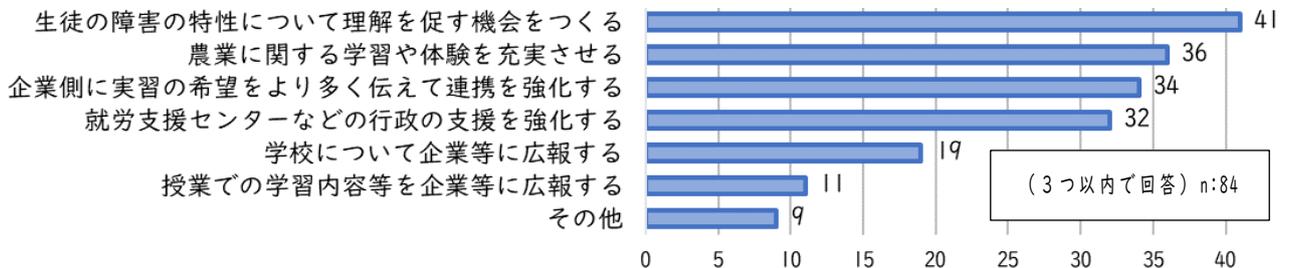
産業現場実習の仕組みを知っていた？



(質問 14)

特別支援学校がどのように取り組めば【別紙2-「5」】現場実習（インターン）の受入先が増えると考えますか

学校がどうすれば産業現場実習先が増える？

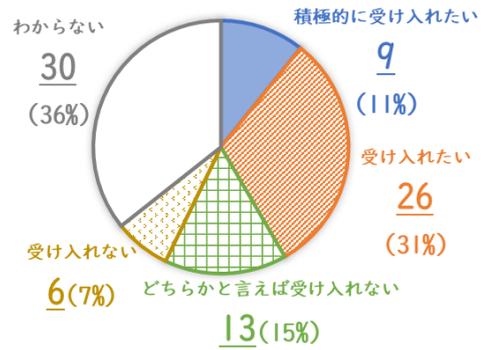


【その他の内訳】 JAや商工会議所などに広報 企業にとってのメリットを前面に 賃金の補填
進路担当者がこまめに企業訪問する 障害を細分化して企業に広報する

(質問 15)

今後、特別支援学校から【別紙 2 - 「5」】のような現場実習(インターン)の希望があった場合にはどのように対応しますか (単一回答)

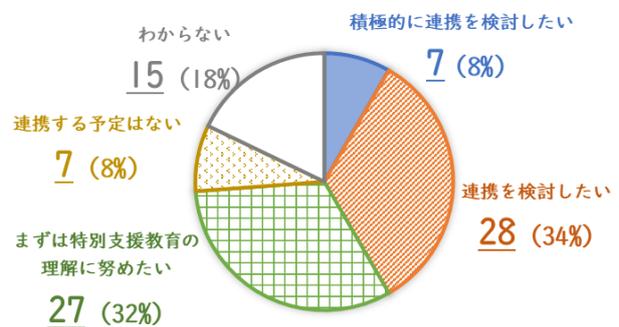
今後の現場実習の受入は?



(質問 16)

【別紙 2 - 「3」】をご覧になって、今後特別支援学校との連携についてどうお考えですか (単一回答)

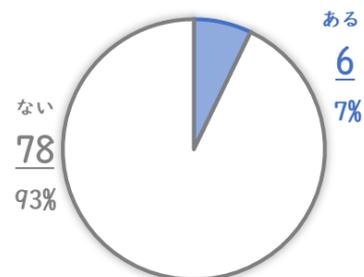
今後の連携は?



(質問 17)

特別支援学校学卒者の採用実績はありますか (単一回答)

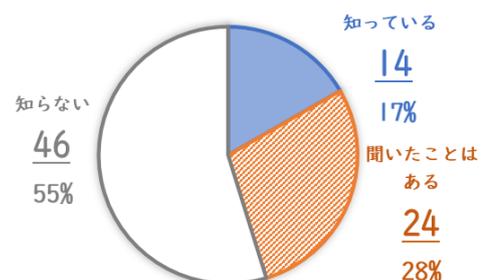
生徒の採用実績は?



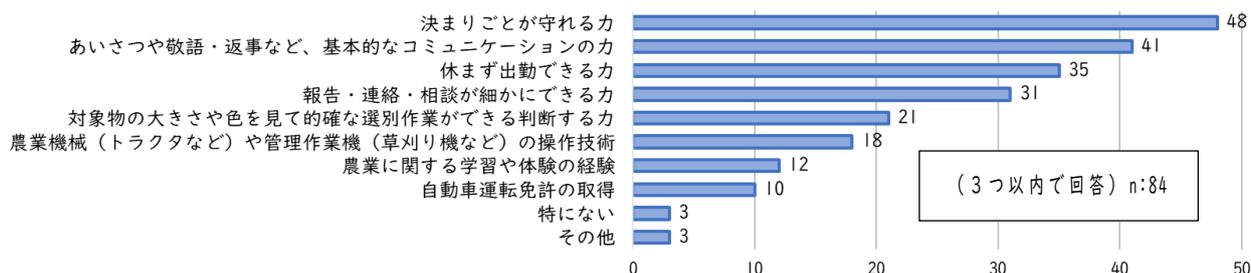
(質問 18)

特別支援学校の生徒は授業(作業学習)で野菜生産や花き生産などの農業分野の作業の学習に、年間を通して取り組んでいることをご存じですか (単一回答)

作業学習を知っている?



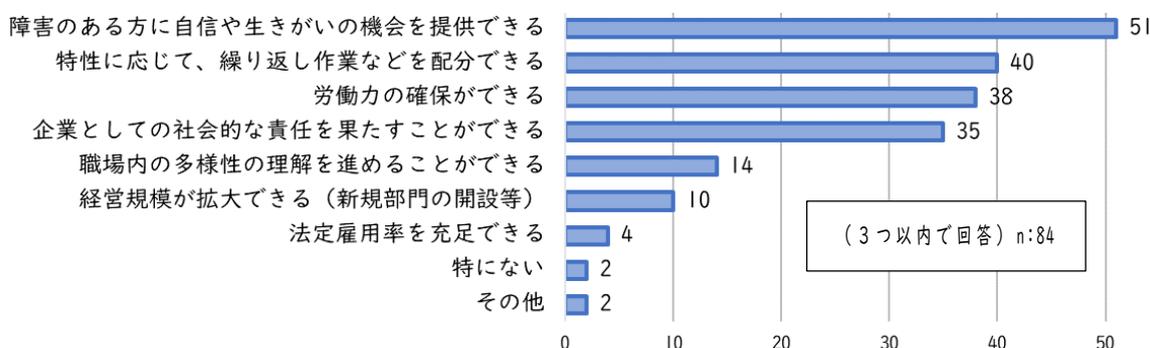
(質問 19) 特別支援学校の生徒を学卒採用する場合、どのようなことを求めますか
生徒を採用するときに求めるものは？



【その他の内訳】最低限の状況判断能力と危機管理能力 他

(質問 20) 特別支援学校の生徒を学卒採用する場合、企業として期待することを選んでください

生徒を採用するときに企業として期待することは？

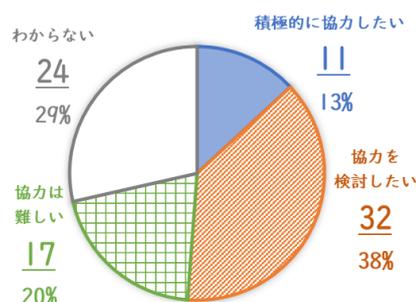


(お願い)

【別紙3-「4」】のとおり、今後生徒の農業分野への就労支援を一層推進したいと考えますが、プログラムの作成などにご協力いただけますか

(単一回答)

プログラム作成に協力いただけますか？



(質問 22) 障害のある方を雇用する場合の特性に応じた仕事内容の工夫や留意されている点があれば御教授ください

B型の就労支援の用意がある。

本人の特性や本人が興味をもった作業に取り組んでもらっている。

学校で学習や体験して来たことを生かしてもらいたい。

複数の特性に合わせた作業を同一空間でできるようにしている。

例) ねぎの「カット・皮ムキ・調節・箱詰」など。畑で「草刈り、草取り、追肥、土寄せ」などを複数人で同時に違う作業を行っている。

障害のある方を雇用した実績はある。その時（現在も）はペースメーカーを常に

気をつけて意識することが重要だったので、社内に周知し、主治医とも話をして理解を深めていった。障害といっても様々であり、まずは企業もそこを理解し、どのような業務に適しているかを判断していくと思う。そこについては障害のあるなしではなく共通している。

以前、就労支援 B 型の方々が当農園で、ねぎの選別、袋詰めをしていただいた時、他人の声が気になり落ちつかなくなってしまうことがあった。作業内容とその方の特徴を良く理解することが大事だと思いました。

できる能力にあわせて、仕事場所・配置を決めている。

なるべく健常者と同じ扱いをする。

多少のミスがあっても、やり直しが出来る仕事をしてもらう事が多い。

雨天時の軽作業で茶葉を入れるアルミパックへのシール貼り作業、指定した場所にまっすぐ水平にキレイに貼れる様にボール紙で定規を作り作業を進める。

現状、農業に関しては参入したばかりでまだ受け入れはできませんが、周りの農業を見る限り低所得農業が多く、受け入れは難しいと思う。根本的に国や自治体の支援や補助が無い限り、企業農業や富裕農家で無いと出来ない。あと、年代的に考え方が偏っている方が多いので自分たちだけしか考えない人が多い。日本人の考え方、国政の考え方を変えて行かなければ表面的な事ばかりの行動で海外の様な保護・協力の精神にはならない。

(質問 23) 障害のある方の就労において、繁忙期・閑散期がある農業分野で年間を通して安定した雇用をするために取り組んでおられることがあれば御教授ください

年間を通して作業が途切れないビニルハウスでのしいたけ菌床栽培をしている。

年間を通じて、複数の作物を多くする事に尽きる。

年間を通して雇用するために、年間を通して出荷できる作物、栽培体型にしている（水耕栽培、雨天の種まき等）

別品目の生産、他法人への出向。

異業種との連携、規格外野菜の加工技術と発送の向上、農福連携の推進。

仕事量を増やす、野菜を沢山作る、無理して仕事を増やさない、のバランスを作る。

直売を中心とした農業経営。

農業の中でも畜産業は繁忙・閑散が少ない業種になる。1週間作業の繰り返しなので、障害があっても慣れやすい。

3～6ヶ月（短期栽培）商品より、2～3年培養の商品（園芸品）の開発で年間雇用が可能と考える。

先端技術が進む中、一次産業は低所得層が多いアナログ産業なので支援、補助の根本的改革をしない限り農家は潰れて企業農業ばかりになり、最終的に農地は無くなる。安定雇用に関しては元から考え直す必要がある。日本は弱者に対して言動と行動が比例していない。

(質問 24) 特別支援学校の生徒を学卒採用する場合に不安を感じる点があれば教えてください

通勤手段、怪我、既存スタッフとのコミュニケーション、どこまで出来るか。

障がいの程度にもよるが他者とのコミュニケーションや作業中の集中力が欠如した時に起こりえる事故など。

適応能力がわからないなど。

トラックの運転をはじめ、大型特殊自動車の運転操作ができるのか。そもそも免許の取得はできるのか。

自力通勤できるか？

農業は通常のパートさんでも最低賃金分を稼ぎ出すのが大変なので、スピードや効率が落ちてしまうこと。

賃金はどのくらいが適正なのか。(最低賃金とのからみ)仕事の量で賃金を決めていいのか。社会保障にどれだけ入れればいいか。

賃金に見合った労働力が確保できない場合の対応。

過去にどういった行動があり、どういう事にストレスを感じるのかを知りたい。

ない。先生たちが仕上げてくれているので。親の過剰な期待。

農作業においてハサミやカッター等少なからず危険な器具を使用するため、予期せぬ怪我などが起こらないか心配である。

1次産業の稲や麦等を経営している企業で、大型化、機械化、高齢化の中、採用出来ないことを考えてしまう。農繁期(繁忙期)は特に思う。

一人での作業があること。

一人に出来るかどうか心配。

管理監督者を必ず常時付ける必要があるか。通勤手段、移動手段等の足の便については、援助する場合があるか。

会って見ないとわからない。

どのように対応、教育すればよいのかわからない。

生徒の特性がわからない。教えるスタッフの時間がとられるのではないかと。安全対策への費用負担の増大。

生徒の特性に応じた対応がどこまでできるか。

指導者不足。

福祉作業ではないので、指導力もない。

教える人の確保。

各種障がい者に対しての専門教育を受けてないので対応が不安。

状況がわからないので全てが不安です。

周年で仕事を作ることが出来るか。

障害の程度が一般の方はわからない。

衛生面のルールが守れるかどうか。

(質問 25) 「特別支援学校生徒の農業分野への就労」について、期待することがあれば教えてください

労力の確保。

個々の出来る能力と各分野での作業とのマッチング。どこまでの作業が出来るかよく分からない。

繁忙期のみの季節労働的な働き方。

スポット的な集団での労力。

それなりの知識がある事がのぞましい。

個々の特性（趣味を含め）を生かし、専門的な知識の活用を期待する。

皆素直な生徒ばかりなので真面目に作業して技術を身につけてほしい。

良く教育されているので、真面目であれば問題ない。

真面目な取組。

就労支援事業所を通じて、一般就労につなげて行ってほしいです。

学校内での農業実習の中で、この生徒はどんな仕事が得意でどんなことが苦手なのか（その理由）といった個別情報が必要。

造園業は肉体労働を基本としている。また、管理作業機を使用しての作業もある。体力面・操作技術はどうしても必要となり、今後の連携を期待している。

正直どのような生徒なのか分からないのが現状。広く情報がほしいです。単純作業も多い農業です。好んでやっていただける方がいることを期待している。

生徒の能力がどの程度かわからないので、インターンシップ等で把握しないと難しいのではないかと。労働力が増えるので良いと思う。

どんどん送り込んでほしい。農業界に。

本人に生きがいを感じてもらえる機会になる。

農業を通し、少なからず社会との交流で将来の自由が広がれば良いと思う。

社会的意義があるので、それぞれの負担を減らし幸せになる仕組みづくり。

出来高制であれば計画的な経営を強化できる。

単調作業や、繰返し作業を確実に出来ること。

農業には単純労働も多く担い手が増えるとありがたいです。

手作業の労働の確保。

(質問 26) 特別支援学校生徒を学卒採用する場合に行政にどのようなことを要望しますか

公共機関やスクールバスなどと連携した家庭と会社間の安全な送迎システムの構築。

生徒の作業能力や適応力を教えて欲しい。

まずはアルバイトで適性を確認したい

企業紹介をしてほしい。

農業は利益を出しにくい産業です。補助金を頂けると受け入れやすくなる。

最低賃金分働けないことが多いと思うので、その分を補助してもらえると、就労に結び付き易い。

生徒がある程度仕事ができるまでの補助金とかがあったらいい。

賃金の負担。

賃金の補填。

企業の助成金。障害者が働くということを軽く考えない。企業を一番大事にする考え方。

継続的な補助制度。

雇う側が雇おうと思わないのが現状です。十分な補助金や支援金の導入しかないのでしょうかね。

どれだけの頻度で定着するまで訪問してくれるか。定着後も、どのくらいの頻度で訪問してもらえるのか。

生徒の採用後のフォローアップ、こまめな情報交換。

採用後のフォロー。

支援学校の生徒に合う仕事は沢山あると思うが、営利を求められる企業としては、どうしても生き残りをかけて効率を求めざるを得ない。受け入れ準備等の支援や、受け入れ後のサポート体制の構築をお願い出来ればと思う。

指導担当者を無料で派遣して欲しい。

専門教育（農業全般でなく）園芸鉢物と云う特殊知識を教えてほしい。

受け入れ体制を整えられる農業支援。

障がい者に対する理解、特性の研修。

生徒・保護者、・雇用受入先とのミスマッチがないように努める。

福祉の場を政治的な見方ではなくもっとスピーディーに。彼らが安心して暮らせ、仕事を当たり前になす農園があり、マルシェもある建物。ホテルも有り、彼らの活躍を見に来る、コロナ後に埼玉への観光の拠点（旗揚げ印）に成る建物。

知的障害のある生徒を受入れた時に、その生徒が作業中に自傷行為をしてしまい、周りのパートさんたちも衝撃を受けてしまい、それ以来受け入れをしていない。そうした時の対応も事前に周知しておくことも必要だと思う。

（質問 27） 総合教育センター江南支所（農業教育・環境教育推進担当）では次のような事業に取り組んでいます。（※略）特別支援学校生徒の農業分野への就労支援に関して総合教育センター江南支所に対して何を期待しますか

食と農のチャレンジ教室

グループ会社の就労支援 A 型事業所では生徒の受入をしており、日々働いてもらっている。

障害のある生徒に仕事を任せるということは、一連作業の部分部分を分けてアウトソーシングすることになるので、作物ごとの業務分割のモデルづくりが必要（マニュアル的なもの）（他人から見ても分かる仕事の見える化）

農業という職業の理解を促す活動。新規就農の方法の教授。

実際に雇用している方の体制作り、企業の取組・準備・問題点など、企業側の意見交換、情報共有を知りたい（取組に対してのフィードバック）

広く情報発信してインターンの機会を多く設けていただければと思う。

企業との相互理解構築の為の情報提供に期待致します。

広報と理解を深めること。体験。

雇用に必要な知識、受入体制の整備方法などについての企業向け説明会・研修。

農福連携課を作ること。全国で最初にやってほしい。

支所ではなく国全体として全てにおいて連携開示しながら進めて欲しい。

私どもの農場では高校の生徒さんを援農隊として受け入れていますので、農家の仕事がどのようなものなのか経験いただくことは可能です。

仕事とは大変な事が多い事を伝えて。でも楽しい事もあるとも。幸せは自分の心が作ると伝えて。

各種教職員の研修。

農業の大切さや食に対しての理解。



ご協力ありがとうございました